



靖國神社神池の桜



第145号

公益財団法人 特攻隊戦没者 慰霊顕彰会
 編集人 金子敬志
 発行人 石井光政
 印刷所 島根印刷株式会社

目次

卷頭言	副理事長 岡部俊哉	2
各地慰霊祭等報告		
第44回特攻隊全戦没者慰霊祭	編集長 金子敬志	4
宮崎県特攻勇士慰霊祭	広報委員 四谷桜子	7
岡出とよ子さん特攻隊員の辞世の短冊を奉納	編集長 金子敬志	8
会員等投稿		
多田野語録	会員 多田野弘	9
元上司は神雷部隊・桜花隊分隊長	会員 水町博勝	11
特攻隊員へのインタビュー	会員 中川法宏	11
武政福一 二等兵曹(沖縄海上特攻4・7 涼月乗組み)		16
中村真曹長(陸軍特別攻撃隊菊水隊飛行第95戦隊)		27
史跡 詫間海軍航空隊跡	真鍋道弘	37
連載 山ある記22	会員 池田康博	42
顕彰譜(10)		43
芸欄 歌俳柳の広場		
短歌・俳句・川柳		47
事務局からの報告等		
令和4年度事業報告及び決算		48
会報記事の訂正		50
寄付者等の報告		50
挿絵提供	空自OB 宇山氏	

「巻頭言」

公益財団法人 特攻隊戦没者慰霊顕彰会

副理事長 岡部 俊哉



近年の地球温暖化のせいか、入学に付きものと思っていた桜花が、卒業シーズンのものと化してきています。更に今年は春を一気に通り越したかの様な、正に立夏の如き汗ばむ陽気が幾日かありました。

そんな一日の帰宅途中のこと、幼児を連れた若いお母さんが電車に乗ってききました。しばらくしてその子がぐずつきだしたので、お母さんは抱き上げてあやし始めました。袖まくりをしたその両腕にはタトゥーが。

巷では、著名なスポーツ選手や芸能人

等をはじめ若者の間で、ファッションや個性の表現としてタトゥー・刺青が流行していることは知っており、目にすることが度々あります。社会の価値観が大きく変わってきたことも認めざるを得なくなってきたとも思います。

しかしながら微笑ましい母子の姿と入れ墨が、私個人としてはどうしても似つかわしくない、不自然なものとしか映らないのです。

かつて親から、「身体髪膚、之を父母に受く。敢えて毀傷せざるは、孝の始めなり(孝経)」を機会ある毎に諭されてきました。この章句は最早死文でしょうか。でも皮膚を傷つけた子の親不孝もそうですが、皮膚を傷つけた親を見て育つ子の親孝行はどうなるのか。大きなお世話ですが、気になって仕方ありません。やはり私は旧いタイプの人間なのでしようか。

翌朝、出勤のために身支度を整えている折、子供の部屋から目覚まし時計の鳴り響く音が聞こえてきました。春眠暁を覚えず、一向に起きてくる気配がありません。

「シャキッとせい！」と言い部屋に行きかけた時、ある戯れ歌が頭をよぎりま

「しんだい寝台はつぷ白布、之を父母に受く。敢えて起床せざるは孝の始めなり(詠み人知らず)」

まあ、たまの遅刻程度は大したことはないか。にんまりして愚子の親孝行？を認めることにしました。



第44回特攻隊全戦歿者慰霊祭

編集長 金子 敬志

令和5年3月25日(土)に靖国神社において斎行された第44回特攻隊全戦歿者慰霊祭は、新型コロナウイルスの状況に鑑み、昇殿参拝のみとし、懇親会は無しとして斎行されました。

慰霊祭行事は次のとおりです。

一 慰霊祭

令和5年3月25日(土) 11時～12時

於 靖国神社拝殿・本殿

式次第

国歌演奏

トランペット

堀田 和夫

修抜、献饌、祝詞奏上

祭文奏上

岩崎 茂

献 吟

一誠流

竹内 一香

龍 笛

安藤 一感

●義烈空挺隊

関 三郎 作

昭和二十年六月十五日 沖縄北飛行場付近で戦死

よしや身は千々に散るとも
来る春にまた咲き出でん靖国の宮

●第四昭和隊 佐藤 光男 作

昭和二十年四月十六日 喜界島南東五十哩付近で戦死

咲きしより散らん桜花の心なれ

散るべき時ぞ今ぞこの時

献 奏「鎮魂同期の桜」 「海ゆかば」

トランペット

堀田 和夫

本殿参拝

玉串奉奠(遺族・来賓等参加者代表)

黙 祷 「国の鎮め」

御遺族20名を始め御来賓、一般会員等を合わせて124名の方々が参列し、英霊に哀悼の誠を捧げました。

また、玉串料は、当日参列は出来なかつた方を含め、お送り頂いた222名の方々の御芳名を添付して靖国神社に収めさせていただきますました

二 特攻勇士之像への献花

本殿参拝後、参加者は遊就館前の特攻勇士之像の前に集まり、代表者による献花と行われました。

昨年、今回は制限の無い慰霊祭が開催されることを願いましたが残念ながら実現しませんでした。今一度、次回こそ制限のない慰霊祭開催を願って解散いたしました。

祭 文

特別攻撃隊で戦没された、ご英霊の皆様にお参りすることが出来ますことに、心から感謝申し上げます。

今年も、ここ靖国神社の社頭において、皆様方は、大東亜戦争末期の我国の存亡の時に際し、ご家族、ふるさと、そしてこの日本を守るために、空に、海に、陸に、自らの身を賭して、散華されました。

正に、日本人の崇高な精神「利他」を、身をもって示されたものです。

このことは、我国のみならず、人の世に、燦然と輝く、語り継ぐべき偉業として、残されてきております。

私達は、皆様方に対し、心からの感謝と、敬意を奉げます。

現在、世界が混とんとした情勢となつていますが、その中で、大東亜戦争中の特別攻撃隊のことが報道されています。

一つは、ウクライナの女性が靖国神社の特攻勇士の像の前で、「もし、ウクライナに特攻隊員のような自己犠牲の精神を持った愛国心あふれる青年たちが居たら、ロシアに侵略されることはなかっただろう」と語っていたとの事。また、中国が

将来の米国との戦い方を研究している中で、大東亜戦争における、日米の戦いを分析していますが、そこで、沖縄戦における特攻作戦を、「日本側の神風攻撃はかなりの効果をあげた」と評価している記述が有ります。

このように、特攻作戦と皆様の行動は、戦術的にも精神的にも、国際社会の中で高く評価されています。

ロシアによるウクライナ侵略はどのよ

うな状況にあるかと、

うになるのか予断は許されませんが、このように、今後も、民族、宗教、主義主張、国境等による争いや戦争が、絶えることはないと思えます。また、その戦いは、宇宙、サイバー空間にまで拡大し、絶えることなく続いております。

皆様は、70有年前、祖国日本の不滅と最後の勝利を確信し、より良い日本を建設すべく、国家国民のために一身を捧げられました。皆様の示されたこの精神こそ、常に国を護り、国を興す底力であり、身を以て範を示されたものと信じてやみません。皆様方のお陰で、現在の平和で繁栄した日本があることに、改めて心より感謝申し上げます。

私たちは、これからもご英霊の皆様の志を守り、ますます努力し、日本の平和の維持、発展と文化の継承に努める所存です。

世界の情勢は、今、正に激動の中にあります。在天の皆様、どうか私達をお見守りください。そして、お導き下さい。皆様方の、安らかならんことをお祈り申し上げます。

令和5年3月25日

公益財団法人 特攻隊戦没者慰霊顕彰会

理事長 岩崎 茂



岩崎理事長による祭文奏上



山口宮司へ岩崎理事長から玉串料奉納



橋本大二郎元高知県知事による献花



拝殿から本殿へ移動

この度、第44回特攻隊全戦没者
慰霊祭の開催にあたり、会の皆様方
のご尽力に敬意を表します。

国家に殉じた英霊が安らかに眠られ
ますことを、お祈り申し上げます。

小職も常に特攻隊全戦没者に想いを
馳せ、日々の公務に当たって参ります。

合掌



“ヒゲの隊長”こと
参議院議員

佐藤 まさひさ

102-0072

東京都千代田区飯田橋1-5-7 東専堂ビル2階

公益財団法人 特攻隊戦没者慰霊顕彰会

理事長 岩崎 茂 様

〒102-0074
東京都千代田区九段南1-6-5
九段会館テラス4階
一般財団法人 日本遺族会

3月24日 午前 午後 なし

翌日以降の配達日指定をされた場合
のみ配達時間帯希望が可能です。

TEL (03) 3261-5521

① ② ③ ④ 普通用 ⑤ 普

第四十四回特攻隊全戦没者慰霊祭のご斎行にあたり、
平和の礎となられました尊い御霊に対し、謹んで哀悼
の意を表します。
また、感染予防の下、ご斎行に際し、ご尽力賜りまし
た関係各位に、心より感謝を申しあげます。
我が国の今日の平和と繁栄をもたらしたものは何で
あつたのか、いま改めて思う時、世界に目を向ければ
未だに紛争が堪えず、罪のない大切な命が失われ続け
ています。時代の变化の中で苦しみや悲しみはそれぞ
れにあら、ご英霊の皆様は二度と私達と同じような
遭難を乗り越えてはならないという固い決意を持たせ、私
も戦没者の遺児の一人として新たに感じております。私
れはなりませぬ。命の大切さを後世に語り継いでいかな
皆様方には「平和を語り継ぐ者」として、今後とも
末永くお力添えいただければ幸いです。
結び、ご参集の皆様方のご健勝、ご多幸を心から
お祈り申し上げます。

一般財団法人 日本遺族会
会長 水落 敏 栄

宮崎県特攻勇士慰霊祭

広報委員 四谷 桜子

桜が美しく咲き、うらかな陽光に恵まれた令和5年3月28日(火)午後3時、宮崎縣護國神社で「特攻勇士慰霊祭」が斎行されました。

この特攻勇士の像は平成31年3月28日に奉納され、宮崎県出身者74名の特攻勇士を顕彰しています。

慰霊祭には特攻像建立にご尽力いただいた三浦隊友会会長、国部事務局長をはじめ約20名が参列し、穏やかな風の吹く中で山田勇徳禰宜による約15分にわたる祝詞奏上から全員の玉串奉奠まで約1時間の慰霊祭は整齊かつ厳かに行われました。

当会からは石井専務理事と私の二名が参列いたしました。

こちらの護國神社には初めて伺いましたが、境内入口には「日本不滅」「忠魂不滅」と文字の入った石灯籠が建ち、その先に台湾歩兵第一聯隊や第三十七師団、輸送船富山丸戦没者などの慰霊碑が整然と並ぶ様はとて美しく感じられました。そして特攻像の隣には宮崎県出身で特攻の第一次陣としてマバラカットより出撃し散華された敷島隊の永峯肇兵曹長(享年

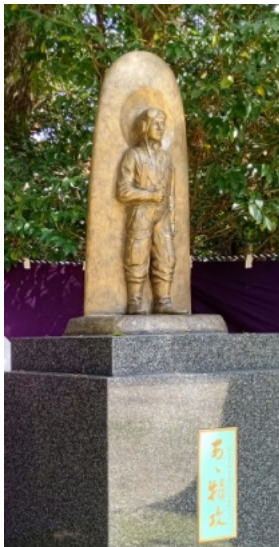
19歳)の慰霊碑と辞世の句碑があります。

このたび永峯家にあつた山桜をこの碑の横に移植されたとのことで見学していた際、地元の方が「桜の移植はうまくいかないこともあるが、この桜は移植した翌年すぐに美しく花を咲かせてくれたんですよ」と嬉しそうに話してくださいました。

永峯兵曹長の辞世の句「南海にたとへば」という歌には、19歳にして国の行く末を思う崇高な精神を感じます。

同じ思いで飛び立った特攻隊員達の意志を受け継ぎ、この平和な日本を守っていかねければならないと心新たにいたしました。

またこの宮崎の地には八紘一宇の塔をはじめ宮崎空時代の掩体壕や弾薬庫など多くの史跡や遺構がほぼ完全な状態で保存されており、地元の方々がそれぞれ同じ思いをもってこれらの遺構を大事に次世代に残してくださっていることには大変感銘を受けました。



宮崎県特攻勇士の像



祭壇前に集う参列者

岡出とよ子さん特攻隊員の辞世の短冊を奉納

編集長 金子 敬志

3月13日(月)三重県在住の岡出とよ子さんが、特攻隊員が辞世を記した短冊三十四首を世田谷山観音寺に奉納されました。

短冊は複製で、本物は沖繩縣護國神社に奉納されています。

当日は、午後1時過ぎに岡出とよ子さんご友人2名が世田谷山観音寺に来訪、当会からは石井専務理事と私が臨席させ



岡出とよ子氏から太田兼照和尚に遺詠の手渡し



特攻観音経を讀経する岡出とよ子さん

て頂きました。
短冊は特攻観音堂に於いて岡出とよ子さんから太田兼照和尚に手渡され、その後、特攻観音像の前に安置され、兼照和尚の読経により法要が行われ、無事奉納を終了しました。

短冊について簡単に紹介します。

とよ子さんの父、喜作さんは、十八年頃、伊勢市に明野陸軍飛行学校御用達の宿泊施設「攻空寮」を始めました。ここでは特攻隊員が出撃前の最後の時間を過ごしましたが、この時に短冊に辞世の句

を記し、託していったものと思われます。

戦後、とよ子さんのお母さんがお持ちで、明野の航空学校に寄贈しようとして元特攻隊員に託されましたが、やがてとよ子さんの手元に戻ってきました。

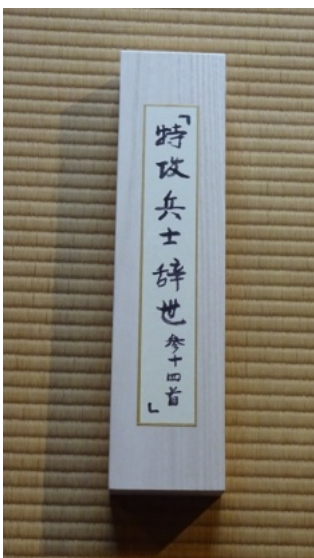
とよ子さんは、ご遺族に短冊を渡さなければならぬと思い、五十代の頃から遺族探しを始め、お返ししてきましたが、最終的に三十四通がお手元に残りました。

とよ子さんは、これらの短冊を沖繩縣護國神社に奉納したいとし、昨年10月23日に無事奉納することが出来ました。

詳細については会報141号(令和4年8月)に掲載されています。

当会のHPからもご覧になれます。

<https://tokkotai.or.jp/>



桐の箱に収められた奉納短冊

多田野語録
「伝承する」

会員 多田野 弘

「伝承する」とは、伝え繋ぐという意味である。それは古来、多くの先哲がおこなってきたことである。私達も社会を構成する一員であるとともに、子を持つ親として、育まれた自らの人間観・社会観・良風美俗を伝え繋ぐ、義務と責任がある。私には、波乱に満ちた100年余の人生経験があり、伝承すべき課題は多い。

その中でも、私が伝えたいのは、「死のとらえ方」である。多くの人は死を恐怖ととらえている。死を直視せずして、どうして幸せな人生が得られようか。私には、死線を越えた体験が数知れずある。その都度、死と向き合い自分のものにして日々を生きてきた。どうしてそうなたかを述べてみる。

それは、私が戦場に向かった22歳の時、死は当然だと覚悟したことに始まる。着いた戦場ラバウルは、毎日100機を越す戦爆連合の空襲があり、一日中、何度も自分の死と向き合うことになった。死は特別なことではなく、日常茶飯事だった。慣れというのは恐ろしい。死は当然であって、死なずにいるのが不自然だと思ふようになっていった。当時戦況は、日増しに悪化しており、自分の死がそう

遠くないのが、一兵士の私にも予想できた。毎日、「今日は無事だったが、明日は俺の番かもわからんぞ」と自分に言い聞かせて眠るのだった。

疲れ果てて眠りにおちていた深夜、心の奥から「びくびくせずには死ね」という声が聞こえてきた。思わず、「そうだっ！死は恐るべきことではない、祖国や家族の平安に資する崇高な行為で、自分を最高に活かす道である。男子の本懐これに過ぐるものはなし。」と悟った。途端に気後れすることなく、死を受け容れた。すると忽ち心が晴れ渡り、すがすがしい気持ちになったのを今も鮮明に覚えていて。

しかし、なぜ躊躇なく自分の死を受容できたのか不思議でならなかった。心でどれほど考えようと、すんなりと死を受け容れられるはずがない、何か大きな力が働いたからに違いない。それは、魂ではないかと直感した。魂の存在に目覚めた瞬間であった。同時に、魂が偉大な力を持つのは、宇宙の生成発展の意志を帯びているからだと気づいた。故に、魂は私の所有ではなく、魂こそが私の存在であると悟った。

戦後になって、私の魂についての認識が、独りよがりの幻想ではないことを証明してくれた先哲がいた。一人は、ロシ

アの文豪トルストイである。その書「人生の道」に、「魂は肉体に宿り、心と身体を統御・支配する」と断言している。魂が主人で、心は魂の働きを具体化する従者・道具だという。もう一人は、ギリシャの哲人ソクラテスである。高弟のプラトンの書「ソクラテスの弁明」のなかに彼は紀元前450年頃、「徳を高め、魂を養え」とアテネ市中を説いて回った、と述べている。それは日本の縄文時代、竪穴式住居で食べることしか考えなかつた頃で、徳や魂について語ったのは、彼が世界で最初の人だった。

三人目の哲人は、オーストリアの精神心理学者V・E・フランクルである。彼は第一次大戦中、ユダヤ人のためドイツ・ナチスに捉えられ、アウシュビッツ収容所に送られ、妻はガス室で殺された。収容所の中で、囚人の不思議な光景を目撃した。毎日、呼ばれた者がガス室に送られるので戦々恐々としている中で、ある囚人は、高らかに国歌を歌いながら、従容としてガス室に入ってしまった。ある囚人は、支給された僅かな黒パンを、病人の枕元にそつと置いて作業に出ていった。さらに、若者の身代わりを買って出て、

ガス室に入っていく老人もいた。戦後彼は、収容所内で目撃した囚人達の崇高な行為は、人間のどこから出てい

るかを追求し、著書「夜と霧」に発表した。忽ち世界中に広まり、ベストセラーになった。その崇高な精神は、「超越的無意識であり、東洋という魂である」と記されている。これら三哲人の書によって、私の魂に対する認識は幻想ではなく、正しかったことが裏づけられた。

私の思惟する死は、魂の容器・肉体の死であって、魂は霊魂と名付けられて永遠に生き続け、宇宙の意志によつて再びこの世に生を与えられる。故に、死は恐れ悼むことではなく、歓迎すべきことであると考える。死線を越えた体験から、魂の存在を悟つた人生は、不撓不屈の精神をつくり、一挙手一投足となつて、今日の私をつくつてくれたといえる。死を直視して「魂に目覚めて生きよ」が、最も私の伝承したいことである。

多田野語録
「一心万変に応ず」

会 員 多田野 弘

表題は、安岡正篤がその著『経世の書「呂氏春秋を読む」の中に記されている言葉で、自分の心さえ養い定めていけば、人生のどのような変化にも処していけるという。言いかえれば、自分の心の在り方如何を問うている。だが、私たちの心は、身体と同じく生来備っているものと考えており、心の指示に従つて動いてい

る。このことに奇異を感じる人はいない。心がどうしてつくられたかを知れば、いかに不確実、不安定なものが分かるだろう。

下西風澄は「生成と消滅の精神史」に、「心という、よく分からないものがある、手に取ることもできないし、見ることもかなわない。あるのかないのかも、実は分からない。だから多くの人が、色々な角度から議論してきた。中世を経てカントにいたつて、心という捉えどころのないものが、しつかりと対象化できたかのように思われた。心の問題が、解決されなかにやわな相手ではない。」と記している。

また、芳村思風氏はその著に、「心というものは、生まれた時にはなかった。2・3歳頃から言葉を覚え、その言葉と言葉を組み合わせるようになる。その積み重ねによつて理性がつけられた。私たちの心には、その理性が大部分を占めている。つまり、心は自分が作り出したものである。理性がでてくるためには言葉を覚えなければならぬ。その言葉も人間が作ったもので、合理的にしか通用しない。したがつて、理性は、言葉の持つ不完全性を免れない。故に、心を金玉条と考えるはならない。」と述べて

いる。諺に「心を主とする勿れ、心の主となれ」ともある。

人間にとつて大事なことは理性でつくるのではなく、すべて感じることである。たとえば、幸福・愛と信賴・生き甲斐・卑近な例を言えば、豪邸に住み、主人は大会社の社長、息子は東大在学中、何不自由ない暮らしなのに、妻が「私は何て不幸せなんだろう」と、嘆じていれば幸福ではありえない。それに比し、六畳一間に親子二人つましく暮らしていても、「私は何て幸せなんだろう」と、歎けるならば幸福である。

私が、今の自分をどう感じているかを述べたい。はばかりながら、現在、私の人生で一番、生きていることに幸せを感じている。それ以外何もいらぬという、心の豊かさや平穩である。なぜなら、青年期に、3年間南方の4つの島で、毎日死を前にして戦つた逆境が私をつくつてくれたが故である。その逆境から多くを学び歩んできた。共に戦つた中で、現在達者で生きているのは私一人である。今生かされ生きているだけを幸せに感じる。逆境が人間をつくるの一心は、万変に応ずといえるだろう。

元上司は神雷部隊・桜花隊分隊長

会員 水町博勝

一、はじめに

当顕彰会に入会していなかったら「人間爆弾」と言われた特攻の為に開発された「桜花」の分隊長湯野川守正海軍大尉を知る由もなかった。

会報「特攻」に鎌倉建長寺「桜花の碑」慰霊祭の記事の中で湯野川氏のお名前を見てもしかしたら、小生航空自衛隊に勤務していた時上司であった湯野川群司令ではないか、軍歴を知らなかったの、驚きの一瞬でした。何時かお目にかかりお話を直接伺いたかったが、既に二〇一九年七月二十日鬼籍となられました。

初めてお会いしたのは五十一年前、小生レーダー基地に於いて戦闘機を誘導する要撃管制官として勤務中、湯野川一等空佐が第四十四警戒群司令兼峰岡山分屯基地司令として着任されました。

当時は自動警戒管制組織(BADGE)の建設中、企業の立地に合う首都圏に近い房総のレーダー基地が中心となって、探知した航跡の伝送、要撃誘導計算、地対空データリンク等計算機処理を試験運用し、完成した時期でした。その後米国防連メーカーはこの成果を北米・NATO等のシステムに進展させています。

今日本のシステムは指揮統制機能を強化したJADGEシステムとなり、陸・海・空の指揮所とも接続し、防衛力強化のミサイル防衛にも対応しようとしています。特攻作戦時の日本の防空とは雲泥の差で、全国のレーダー基地は朝鮮戦争後、駐留米軍が設置した場所そのまま、初期の選定の確であったからです。器材は技術進歩に伴い更新してあります。

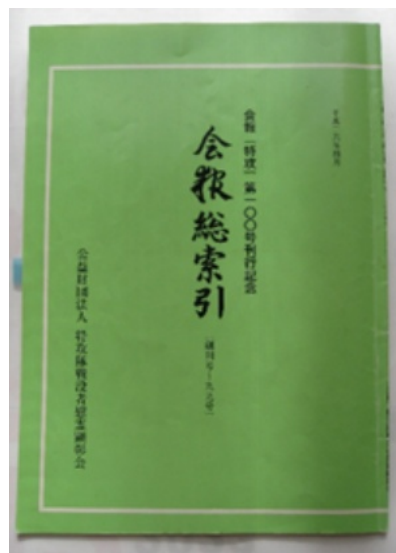
当時私共独身幹部は、二十四時間運用を中断せず、最新の装備をモノにして意気軒昂、単身赴任の群司令と一献を、ご案内し、快く私共の一軒家の下宿に連れられ、自動運用の苦労話で歓談した事。

また土曜の夕刻夜勤上番の為庁舎前に集合中、音楽評論家の湯川れい子さんが基地を訪問され目の前に、司令が出迎えられ、妹さんと知って驚いた事。濃厚で穏やかに話をされたスマートな司令が今も思い出されます。

群司令はその後空将補に昇任北部航空警戒管制団司令兼ねて三沢基地司令、航空実験団司令(岐阜基地)を経て航空自衛隊を退官されました。

二、会誌記事から桜花特攻を検索

会報「特攻」一〇〇号刊行記念「会報総索引」から、航空特攻(対艦船)の項目の中に桜花特攻隊を見つけることが出来る。桜花に関する記事はこれのみでした。



記事は二〇〇一年(平成十三年)四月二日水交社にて「海軍神雷部隊桜花特攻隊について」の座談会を企画された田中賢一編集長が纏めたものです。

海兵七十一期神雷部隊桜花隊分隊長湯野川守正元海軍大尉から往時の話を、戦後の若者が聞く座談会形式により、会報四八号と四九号に連載されて、私の伺いたかった事が語られて貴重な証言です。

興味のある方は当顕彰会のホームページのバックナンバーからご覧になれます。

三、湯野川元海軍大尉の経歴等

大正十年(一九二一年)米沢藩士の血を引く海軍大佐の湯野川忠一の次男として勤務先の佐世保で生まれました。連合艦隊司令長官山本五十六大将の妻禮子さんは、父忠一さんのいとこにあたる。幕末の戊辰戦争では米沢藩と越後長岡藩

が同盟関係にあり、長岡出身の山本と姻戚関係になったからという事です。

司令との宴席でご出身はと伺い「山形の作り酒屋」と言われた故郷を思い出す。

昭和十四年東京の私立麻布中学校(当時も東大・海兵への進学校)から海軍兵学校七十一期生として入学、卒業後戦艦「伊勢」に乗艦、軽巡洋艦「阿賀野」水雷士としてソロモン諸島で戦い、四十期飛行学生に転換、練習機課程後、大分海軍航空隊、筑波海軍航空隊にて訓練し零戦搭乗員となりました。

兵学校出身は部隊の指揮官、予科練・予備学生出身者を率いて戦わなければならない。敵機は性能・技量も優秀なのと戦わなければならない。零戦が四対一なら戦って良い、三対一で良かったのは昭和十七年頃まで、十八年中旬F14シコルスキー、十八年後半F16グラマンが出て来て強かった状況は知っているし、ソロモン帰りの教官も同じで、教育期間の短い部下を連れて敵と戦って、先輩以上の働きをして勝てると思わなかった。よし私は沢山まとめて向うの船を沈める方に回ろうと。

湯野川氏の説明では、筑波空にて昭和十九年八月中旬、開発が進められている「必死必中の新兵器」の搭乗員募集が行われ、「望」「不望」の選択肢から、葛

藤の末「熱望」の意志を上司に伝えた。十一月六日付新兵器「桜花」を主戦兵器とする第七二二航空隊、通称神雷部隊(桜花隊・母機一式陸攻隊・直接掩護零戦隊)に転勤を命ぜられ、同日茨城県の百里原基地に到着すると、七二二空本部は茨城県神栖町神之池基地に移動していた。又移動して、滑走路二千三百メートルと砂浜で桜花の訓練が始まる。

桜花諸元

全長6m 幅約5m 高さ1、1m

全重2、270kg 徹甲爆弾1200kg

水平速度648km/h 航続距離37km

個体ロケット推力

300kg×3

桜花の訓練は、最初は零戦でエンジンを絞り桜花の滑空コースを体得する。その後母機

一式陸攻懸架桜花のそり付き練習機

K1の操縦席に移り、風防を閉め、

各所を操作、異常が無ければ『一

一』と電信音で母機に合図する。

高度3500m投

下のタイミングが来ると、『.』と信号が届き終わると同時にK1は切り離される。操縦は、機首を下げ時速250ノット(450km)位の高速で操縦桿を操作すると、舵の効きが良く操縦し易かった。着陸は砂浜に滑空コースからそりて着陸する。桜花の飛行はこの一回で体得する。訓練は三百名の内三名が事故死等で失敗した。

四、桜花隊の編成・展開と実戦
訓練を終え昭和十九年十一月二十五日桜花隊の分隊編成が行われた。

第一分隊長 平野 晃 大尉

第二分隊長 三橋謙太郎 中尉

第三分隊長 湯野川守正 中尉

第四分隊長 林 富士夫 中尉

湯野川分隊長は分隊員五十三名を預かる。

十二月一日中尉の三名は大尉に昇進し、

同日付で二・三分隊長は隊司令岡村大佐

と一緒に連合艦隊司令長官豊田大將から

内示を受けた。「フィリピン・レイテ島

沖の敵艦隊への体当たり」予定は十二月

二十三日、その為七二二空桜花整備員十

一名は先発した。

桜花は空母三隻で輸送されたが、空母

「信濃」に桜花五十機、空母「雲龍」に

三十機を積載、米潜水艦に撃沈される。

空母「龍鳳」は目的地を台湾の基隆に変



高度3500m投

更し、五十三機輸送したが、桜花百三十三機をフイリピンへ運べず、作戦は中止になり、先発の整備員は陸上戦闘で全員戦死した。

二十年三月十八日大分県宇佐基地に展開していた湯野川率いる桜花隊に出撃命令が下る。母機の第七〇八飛行隊長足立



桜花を懸下した一式陸攻

少佐と出発準備を完了し、攻撃方法の打ち合せも終わり別杯の用意を整えようとしていた時、敵艦上攻撃機の奇襲攻撃を受けた。執拗な銃爆撃に飛行場に並んだ一式陸攻十八機の大半が地上で焼失した。悔しく悪夢のような光景に、よし初出撃に行くぞと覚悟を決めたところで、悔しかったと分隊長は回想した。

五、母機一式陸攻・桜花初出撃

一九三〇年代の軍縮条約による戦艦・巡洋艦・空母勢力を補うため、日本海軍は、陸上基地から長距離攻撃（雷撃・爆撃）の開発に取り組み一式陸攻が生まれた。太平洋戦争初期は台湾からフイリピンの米陸軍基地を攻撃し爆撃機B-17を壊滅し、マレー沖英戦艦「プリンスオブウェールズ」巡洋艦「レバルス」を撃沈させる活躍をした。

然しガダルカナル島の戦いで制空権を喪失、昭和十八年三月十八日山本五十六大將は乗機の一式陸攻は、援護機も無く撃墜されソロモン諸島で戦死された。

桜花の母機として使用すると、桜花の自重2,270kgは一式陸攻の爆装1トンから800kgを遥かに超過、航続距離は30%減、巡航速度314km/hの10%減更に運動機能低下をもたらす。

従って桜花搭載機には4倍の護衛戦闘機

を付ける計画を軍令部は持っていた。搭乗員は7〜8人、操縦士、副操縦士、機上整備員、射爆員、主偵察員、副偵察員、電信員、機長・編隊指揮官です。

桜花隊の最初の出撃は三月二十一日、鹿屋から二分隊長同期の三橋大尉、長崎大村に退避していた野中少佐の陸攻隊が鹿屋に進出して合流、陸攻十八機・隊長以下一三五名、懸架桜花十五機・分隊長以下一五名、零戦は直接掩護の十九機と間接掩護三十四機で計五十三機（原則では六十機以上）、ところが連日の銀河・彗星の特攻出撃援護で参戦した翌日、間接掩護機は二十三機が離陸間もなく故障で離脱、零戦の直接・間接援護機は三十機になってしまった。（余談ですが、以前世田谷山観音寺の月例法要時、野口剛氏から、直接掩護でこの時出撃し、後方上空より不意に敵機の攻撃を受け、次々と零戦掩護機が撃墜された。速度の違いによる援護の難しさを痛感し、自分は被弾し島に不時着した体験を伺いました。証言です）

桜花搭載機は全機撃墜され初攻撃は失敗に終わった。戦死者は桜花隊長以下十五名、陸攻隊長以下百三十五名、零戦隊十名計百六十名、に及びました。

湯野川氏は母機の歴戦の隊長野口五郎

少佐の部屋を尋ねよく話を聞いた。

隊長は有名な隊長で、お兄さんは二・二六事件の野中四郎陸軍大尉、革新派の逸材で、その弟さんは実戦の指揮官でピカ一でした。「俺は夜間雷撃の指揮官をやらしてもらいたい、桜花の作戦は嫌だ」とはつきり言われ、私桜花の分隊長は大変困った。こういう人は大小二百数十回の戦いをやってこられたからそれが言える。今頃この作戦は使えないとも言えなくて「夜間艦隊雷撃をやりたい」を漏らし、母機の速度が落ちるとか、援護戦闘機の兵力が少ないとか、運用面が不安だらけの現場であった。

出撃命令が出た後、神雷部隊司令岡村大佐は五航艦参謀長横井大佐に「もっと戦闘機を出せませんか?」、幕僚長は「司令が五十五機で不安であれば」中止も止むを得ない、五艦司令長官宇垣中将に出撃中止を進言した。宇垣中将は岡村大佐に「この状況下で、若しも使えないものならば、桜花を使う時が無い、と思うがどうかね」と促され岡村司令は「やりませう」と作戦室を後にした。

岡村大佐は野中少佐に「今日は俺が行く」危険の高い任務は指揮官が先頭に立つべく言ったが、野中少佐は「お断りします。そんなに私を信用できませんか」

と拒否され、一度言った事を撤回しない隊長を知っていて、出撃を譲ったと岡村大佐は後に回顧している。

桜花への期待を背負い、鼓舞して不安を消し、出撃の結果が得られなかった。

その後、沖繩決戦の菊水作戦で桜花出撃は九回行われた。桜花の損失は五十五機戦死も五十五名、一式陸攻桜花母機七十八機出撃、未帰還五十二機その搭乗員三百六十五名が戦死した。

戦果は駆逐艦一隻撃沈、二隻大破、四隻小破であった。

六、本来の神雷部隊と終戦

三月二十一日以降陸攻は殆どやられて、協同して戦うことが出来ないとの判断で、三日後の二十四日から桜花隊員だけで建武隊という零戦五二型で、通常二五〇kgを、初めて爆装五〇〇kgを積んで建武隊を組織して出た。その後筑波隊とか、昭和隊とか、神剣隊とか、が有ります。国内の練習航空艦隊には三月以降特攻部隊が作られて、それが全部神雷部隊の下に入れられた。

四月十二日の菊水二号作戦に桜花も出撃しましたが、湯野川分隊は零戦で全員を連れて鹿屋を飛び立った。「行け」と言われれば、桜花・零戦どちらでも良かったのです。神雷部隊の指揮下で出撃した

ものですから、部隊の記録となり、戦没者の総数は八百二十九名、特攻認定者は七百十五名、にのぼりました。これが神雷部隊の全容です。

戦後一般的に神雷部隊は桜花と陸攻を組み合わせ、桜花の研究開発を含めたものとしています。と語っています。

六月の沖繩戦終了後、七二一空は本土決戦に備えて各地に分散配置、湯野川分隊は桜花隊先任分隊として、後方の石川県小松で終戦を迎えた。

終戦まで桜花(一一型)は七五五機生産され、一式陸攻の反省から、派生型(二型)は軽快な銀河に搭載できるように、爆弾を半減600kg、エンジンはモータージェット、航続距離120kmを五十機生産、(四三乙型)は陸地射出(カタパルト)、爆弾800kg、ジェットエンジン、航続距離278kmを製造中で、実戦使用は無かった。

終戦となり八月二十一日の夜、部隊解散宣言を読んだ後、三年後に神雷部隊初出撃した日に又会おうと別れた。

「春分の日」に案内もなく三十七名が靖国神社に全国から集まった。昇殿・慰霊を行って、以後続けている。運命を共にした戦友との絆の日です。

七 結び

(一)、制空権と期待

特攻の戦域は制空権が無い、桜花母機高度は3900m、直掩零戦4100mの大編隊が低速で接近すれば、敵空母群は容易に発見、迎撃機を前進させ、桜花の37km射程外で母機を撃墜すれば良い。後は護衛戦闘機との交戦で母機を通過させた分だけ桜花特攻からの損害を受ける。裏返せば航空戦力は護衛の少ない状況即ち、制空出来ない状況下で一回目の桜花特攻は全滅したのです。

一式陸攻の飛行長岩城邦弘少佐は出撃前「この状況では絶対成功しない」と飛行隊長野中少佐に言ったが、決心は堅く変わらなかったと伝えられている。

一方フィリピンに桜花を輸送中の航空母艦が敵潜水艦魚雷により宮古島沖で撃沈したが、護衛する駆逐艦が不足で、制海権が無かったと言える。貨物船で良かったのに、空母も作戦参加だったのか？戦域は敵機を察知するレーダー航跡情報及び部隊行動の通信傍受により攻撃側の形勢は不利になっていた。

作戦実行段階で無理と思っても、特攻専門兵器の完成、早く成果を上げ、形勢逆転を期待する上層部等の焦りがあったのではないか。

(二)、兵器と練度

戦争の初期、零戦の戦果は目覚ましかったが、米国はこれに勝つため零戦を捕獲し徹底研究、之に勝つ性能の戦闘機開発に必死で取り組み、二、三年後にはF-4やF-6を開発、戦う零戦は1対3でなく1対4でなければ勝てないと現場では実戦による性能の評価をしていた。また操縦者もベテランの損耗と新人の大量養成による戦力低下が認識されていた。

桜花の訓練の特異なのはK1の砂地に着陸する訓練は一回のみであり、訓練の目的は桜花の操縦性の良さを体感させる事、滑り込みを成功すれば合格。突入は同じで、低高度からポプアップ攻撃を零戦で行って戦果を挙げている。隊員は特攻をどちらで選択するかと言った時、打撃力のある桜花を選ぶ方が多かったという。しかし桜花の懸架方式による鈍足が唯一の欠陥で桜花の著しい戦果を上げられなかった。

ロシアのウクライナ侵攻のニュースを見聞しますが、NATO諸国がウクライナに戦車等新たに使う兵器を支援する際、その教育訓練もセットにしている。兵器と練度による成果は常に問われます。

(三) 分隊長は運根鈍

桜花隊の分隊長で終戦を迎えた湯野川

大尉は命を捧げて戦うと決心し、フィリピンでの先陣の戦いは作戦中止、九州南方の敵機動艦隊へ出撃前別杯中に母機全機被弾し断念、零戦でも特攻出撃して生還、特攻で戦果を挙げる「運」に恵まれなかったのか、部下を先に人選し、自分は最後を務めるのが隊長、と上司に言われ、根気よく戦う機会を待ち、終戦となった。生き延びたのも「運」なのか。

小生中学生の頃将来を考え、軍人だった祖父(陸士十期)に聞いた。日清・日露戦争に行き、盧溝橋事件に係わった。軍人という職業は、祖父は「運根鈍」だと答えだったことを思い出します。湯野川元司令に伺いたかった桜花の成否は、過去記事より知り得ました。

(四) 桜花関連の碑

- 1 桜花の碑 昭和四十年三月出撃二十周年記念に鎌倉市建長寺に神雷部隊戦友会(会長岩城邦弘)が慰霊碑を建てた。
 - 2 桜花別盃之地碑 出撃地の鹿屋市
 - 3 桜花練成之地碑 神栖市神ノ池基地
 - 2・3共に元桜花隊員小城久作氏が自費で建立、親しくしていた神雷部隊従軍記者山岡莊八氏が碑に揮毫している。
- 詳細は会報一四一号四四・四五ページ

特攻隊員へのインタビュー

会 員 中川 法宏

武政福一 二等兵曹

(沖繩海上特攻4・7 涼月乗組み)

一 海軍入隊

戦争が始まると同時に男は戦場に行かないかという時代じゃったから特別海軍に行ったらと言う気持ちもなかったけどね。私は一人子じゃ。だから最初は戦争に行くという気もなかったけど国全体が戦争という方向に進みだした後に、家の親父からお母さんなんかも一人子だ



昭和20年4月5日 呉の写真館にて写す

右 武政福一 二等兵曹

左 渡部 勇 二等兵曹

手前 玉城前幸 二等兵曹

から戦争には行かれんと言えんかったわけ。みんな戦争に行くという時代じゃったからね。

海軍を選んだのはここは海岸じゃから船に乗る機会が時々あったわけよ。(高知県黒潮町) 陸よりは海のほうがええと。特別海軍と言う気持ちは無かった。

海兵団は佐世保に行った。昭和18年4月20日に入団した。その当時、海軍は入団するのは5月1日だった。それがわたらの時になって初めて4月20日になったわけだ。わたしが入団して10日たった5月1日にはね、普通りに入団してきたけど、わたしはたった10日早いだけで先輩じゃったわ。10日だけでも先輩じゃから先輩気分が味わえた。

海兵団でやりおったカッターや陸戦隊の教育も受けたわけ。5か月間、銃の使い方なんかもやっただけ。それでどうかというところ身長があつたけん、背の高い者で陸の訓練の時は銃だけでなく機関銃持たされた。そんなような事や。海軍は時々、戦況のニュースが入ってくるわけよ。入隊した時と海兵団で訓練受けてしばらくしてからとでは窮屈と言うか敗戦色、負け戦という感じが気分的にはあつた。それがあつたという事とね、わたしなんか5カ月たつたらすぐ8月頃からどんどん海兵団を出たわけよ。みんな南

へ行ったんだけど、佐世保のわたしらもいっぺん横須賀に行つて、そこから南に行つたわけよ。その時にわたしらより10日早く佐世保の海兵団を出て南へ行ったグループがあるわけ。その人らは行く途中で潜水艦でやられてしもうたわ。その中にわたしなんかと一年違いがおつて死んだわ。海兵団に入つて半年たたんうちに死ぬつてそんな時代じゃった。駆逐艦に乗りたうだけよ。ただ上層部では決まっとつたんだね。横須賀からトラック島に移動して船降りてすぐに涼月に乗って命令が出たから乗り込んだ。涼月に乗った時に水雷になるか砲術になるか何になるかはまだ決めてないわけよ。涼月に乗った時に自分の希望を出せと言つてきた。その時にわたしは水雷を希望したわけ。ほとんどの者は砲術を希望したけどね。それでその時に乗船した者で水雷に行ったのはわたし一人じゃった。この時、涼月に乗った者は20人だったかね。その20人のほとんどは砲術じゃった。中には操舵とか機関兵がおるけん、機関室に行つた者、いろいろ分かれたけどわたしは水雷じゃった。どこに行くか決める前、先に乗つてる先輩が「水雷のほうが体が楽だ」と言うんですよ。そりや大砲の弾持つ事もないし、冗談かもしれんけどそれを聞いたんですよ。そ

れで水雷行こうと思つてそのまま水雷へ行つたわけ。魚雷発射室の中に4本の魚雷が並ぶるわけよ。その後ろに魚雷の格納庫があつて、この中にも4本入つてる。全部で8本しか積んどらんわけ。魚雷発射の訓練なんかははまだ初年兵じゃけに初年兵で最初に就くのは伝令で、上の艦橋から命令が来るけに、それが伝声管を伝つて来るからそれを受けて発射管の中で大きな声で伝える仕事に就いた。実際に撃つたことは無いけど訓練は時々あつた。発射管の中におるから外は見えない。命令で「左何十度！」つて来たら係りの者が左何十度にあわせるわ。わしなんか実際に魚雷を見ることもないわけ。伝令だけやからね。

トラック島で涼月に乗つた時、前に大きな軍艦がおるのよ。これが戦艦大和、武蔵やつた。それがまた大きいわけ。それがトラック島のすぐ近くに見えるわけよ。入浴上陸が2、3回あつたわ。こっちは遊び気分の上陸したけど交通の便もないから歩いて行つて歩いて帰つて来るから見る所なんか棧橋周辺ぐらいなものよ。

二 涼月被雷

トラック島から内地に帰つて呉に入つた。呉に入つてからわしらは秘密やから分からんけど、どうもまた出港するとい

うことじゃつた。それがウエーク島向いて食料弾薬兵隊を輸送する予定じゃつたよ。うだ。ところが呉に入つてすぐ、東京丸と言う貨物船を護衛して12月の22日か23日に宇品を出港したけど、わしらは行き先を知ることは無いわけよ。雪の降る日、雪が上からでなく横に雪が飛びよつたわ。豊後水道の向こうが雪で見えない。豊後水道を通つてウエーク島に着いたのが1月1日の午前3時ごろじゃ。アメリカなんか正月休戦があるからそれを利用したんや。今になつてわかるけどその頃は知らん。何もなかった。無事に着いて陸軍の兵隊と東京丸の食料、弾薬もおろして済むとすぐに引き返してきたわけ。行くのに一週間ぐらいかつたね。帰つて来て今度再び宇品で陸軍の兵隊と食料弾薬を積んで南鳥島に向かつて輸送する任務やつた。南鳥島は東京都じゃけん、この情報はすでにアメリカがキャッチしとつた。ほやから豊後水道出て足摺岬の横を通るぐらゐの時に敵の魚雷攻撃を受けて涼月はやられて3分の1、煙突から前がなくなつた。まだ豊後水道じゃけん内地航海じゃし見張りもそんなおらんから配置に着くというところまでいかなかったからわしなんか一番後部におつたわ。「配置に着け！」の命令が出たもんで走つて走つて魚雷発射管の後ろの格納庫の横

まで来たときに魚雷が命中した。前がやられて煙突は残つとるけど艦橋は無い。後部は舵に当たつた。魚雷が当たる少し前に敵の魚雷が船底を通過したのを発見して艦橋のほうは前進いっぱいかけた。その直後、魚雷が命中したんで機関部はそんなにやられんかつたから前のないまま前進いっぱいをかけたもんで前がグツと下がつて、それを見てみんなが船がしもりだした（沈みだした）と思つた。波がゴンゴンかぶりだす。みんな海に飛び込みだした。わしもその時に「これはいかん！」と思つて外の外縁に出たわけ。外縁にはチェーンが張つてある。そのチェーンを伝つて海に飛び込んで泳ごうと思つた時に、落ち着いとつたというか「この冷い（ひやい）時に泳ぐち」雪は横に降つて向こうが見えん。「自分はもう少し待ちよる」そう考えて再びチェーンを伝つて船に戻つた。それで助かつたわけ。前がのうなつて下がりよつたから後部に行つて助かつた。海に飛びこんだ者で助かつた者はおらんわ。先に誰かが飛び込んだら自分もと思ひよるけど、その時は「この冷いの」そう思つて飛び込まんで助かつた。船も行き足が緩くなつたら前が上がつてきよつた。艦長以下士官が一人もおらんかった。士官は艦橋におるから艦橋が折れてないなつてしもうたから全

員戦死。兵曹長で一人、機関室におつたその人は助かった。その後の指揮はその兵曹長がとつたわ。指揮という指揮は無かつたね。

やられたわけやけど酒保が開放されて酒飲みは酒が飲める。機関兵の上等兵曹が酒飲んで暴れて、それを兵曹長が止めとつた。そのくらいのもんで指揮なんかない。

流れていきよるし周囲は雪降つとるから見えん。わしらと一緒に東京丸を護衛しておつた冬月じゃつたかな、(実際は初月)須崎に入つて東京丸をおいて再びわしらを追いかけてきてあくる日の昼過ぎにわしらの所に来た。連絡とつておつたから監視船が出ちよつたから二杯ぐらいわしらの横に來とつたけどわしらの船を引つ張るわけでもなく、わしらの船は冬月に引つ張られていったけど遅いんじやしかもどこにおるかわからん。そうしたら鹿島が見えたんじや。沖から鹿島見るのは初めてじゃつたが「どうもこれは鹿島じゃなかるうか」と思つて後ろの山を見たら後ろの山は高いんじや。どうもこれは鹿島じゃ思つた。次第次第に陸が近づいてきてこの時初めて「助かった」と思つた。その時にでも甲板には死んだ人が上から落ちてきたいろいろなものに押しつぶされて、わしらが水葬にしてやる

うと思つても引き出せんよ。そんな人が甲板に残つとつた。わしらの班長もこの時水葬にしたけど、魚雷くらつて三日ばかり経つた時でもそんな状態じゃつた。そこから足摺岬沖を通つて四日目の夕方、日が暮れてから宿毛に入ったわ。

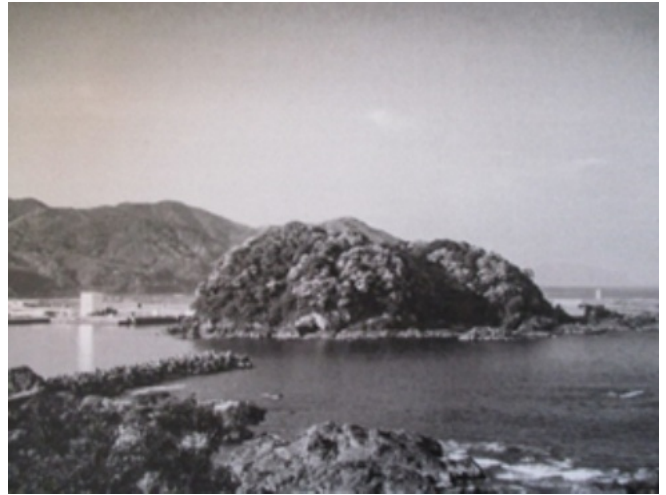
豊後水道は雪や風が吹きよるけに、そんな天気では涼月を引つ張つていけんいうて宿毛にやつぱり4、5日から一週間おらせられた。この時涼月は飯がないから冬月から握り飯が届いた。その握り飯がリング箱入れて持つてくるから引つ付く。摺り糠(もみがら)で飯を包んで一人に一個持つてきた。其れの旨いこと。

世の中で一番旨いのは水とコメじゃと思つた。一週間ばかり宿毛にいて呉に引つ張られて入つた時、呉で戦艦大和なんか造つた設計の人なんか見に來たわけ。わしなんか隠れたわ。士官の者は出来るだけ見られんようにせよ言いよるけに。見に來た人が涼月と言うのはやられてもしもらん(沈まん)もんじやとその時思つたいうて戦後手紙もらつたわ。結局この時、海軍の兵隊が150人ばかり死んで陸軍の兵隊も前の居住区は吹つ飛んで無いし、後ろの居住区もやられとるし、無事だったんは第4居住区だけじゃけにようけ死んだ。

修理しとる間、やる事が無いから食

うたり飲んだりで上陸の許可がない。それでぶらぶらしとつたということかね。呉には海軍の風呂や寝泊まりするとかできるところがあつてわしなんかそこに通うぐらいのことよ。一回休暇が出て家に帰つてきたわ。5日の休暇で行つたり來たりじゃから家に2日ぐらいしかおらんのだが、家に帰つてきたら母が「お前らの船はこの前でやられよつたろ。わしはお前らの船がやられてお前が鹿島さんに助けられた夢を見た」言うた。これはびつくりしたね。やられたことは秘密にしていることやから。その時に思つた。我々にはわからんが神とか仏とかはこの世にあるんだと思つた。母に「鹿島さんを押んで行け」言われたからあくる日自転車で行った。ここからじゃと途中椎の木坂いうところがあつて椎の木があつて鹿島さんが見えんから坂を下りて鹿島さんが見える所まで行つて、そこで手を合わせて帰つてきた。

涼月の修理は8月頃までかかつたね。それで試運転で土佐沖まで來た。試運転したらまだ修理せないかんということよ、今度は呉の倉橋島という島に10日ばかりいて修理が出来上がつてきたわけ。涼月は最初が一番格好のええ駆逐艦じゃつたのが修理して艦橋もカクカクしてしもて一番格好の悪い駆逐艦になつてしもつた。



鹿島さんこと鹿島ヶ浦 (高知県黒潮町)

三 2度目の被雷

修理がすんでもアメリカが押しつけてくるから外地に行くという事はなかった。日本の艦船もやられとった。呉におもやられた話によく聞いたわ。やられても呉の工廠そのものもやられとるから修理がすぐにできん。だから倉橋島や江田島の周辺に錨をおろしておったわ。見たら立派な船じゃけどどこどころ爆弾でやられた跡があったわ。涼月は護衛任務をするにしても船がない。そんなうちにレイテ作戦が始まった。わしなんかもレイ

テ作戦に参加になつて行く途中、呉を出たときは戦艦大和なんかおつて威勢がいいわ。駆逐艦が一番先頭で護衛して行きよつた。それこそ豊後水道を抜けてしばらくしたら魚雷攻撃でやられたわけ。やられた場所が船の一番突先で戦死者が4名じやつた。どうということはないが、けれど航行不能ということで我々の船は隊列を離れて再び呉に帰ってきた。呉を出て大分で上陸して休んで出たわけじゃが上陸したときに佐賀(旧高知県佐賀町、現在は黒潮町)の青木ヒサシ君に丁度おうた。彼も同じ月クラスの駆逐艦秋月に乗つとった。大分で上陸して別府まで電車で行くのに待つとつたらその男におうて話して「元気でやれよ」って別れて戻ってきたがわしなんか真つ先にやられたわけ。青木君はあの時元気でやれよと言うて別れたわしのほうが死んだと思うちよるわけよ。レイテ作戦が始まつて秋月は轟沈じやつた。「青木も死んだか」と思つちよつたが青木は意識不明で浮いておつて助かつて戻ってきた。向こうはわしが死んだ。わしは向こうが死んだと思つちよつたのが二人とも助かつておつたわけ。その時武蔵やらだいぶやられた。涼月は突先だけやられただけじやつたから修理も早くに済んだけどレイテ作戦が終わつて沖繩作戦になつた時は船はだい

ぶのうなつてしまつた。それからはほとんど出んかつたね。瀬戸内海で訓練をするぐらいなことで、それほどの訓練らしい訓練もなかつた。前みたいにウエーク島に輸送するとかもアメリカが近くまで来ていたからそれもない。情報は聞いてないけど大体わかるわ。この頃は呉もやられることもなかつた。

四 惜別の日に

沖繩作戦では稼働戦力が10艘しかなかつた。沖繩に行くという話も聞いてなかつたね。大本営は一億総特攻でその先駆けが大和でわしらなんかも特攻じや。わしらは班長から沖繩海上特攻ということまで3つの達示があつた。一つ目は家の者が心配しない最後の手紙を書け。二つ目は死にゆく体に金は不要。持っている金はすべて家に送れ。三つ目は上陸してゆつくり風呂に入つて綺麗な体で死んで行こう。これがわしらの言う特攻命令じや。これを5日までに終いをつけよと。死に行くのに家の者が安心する手紙なんか書けるわけがない。「元気でやるけに家の者も元気でやれよ」とそれだけ書いた。金を送れつて言うのは涼月が修理で呉に入つておつた時、しよつちゆう上陸して金欠乏しとつたから送る金がなかつた。だから家には一つも送らんかつた。風呂は同年兵3人で上陸したんじやが玉

城が「どうせ死ぬなら3人で写真を写そう。写真屋から家に写真を送ってもらおう」手紙もなんも書かんと。秘密が漏れるような事はできんから名前も書かん。写真屋に頼んで送ってもらおう。玉城が「この写真が家に着く頃には自分らは死んでおらん」と。(16頁の写真)

5日の晩に簡単なご馳走の夕飯がでた。この時「酒保開け」で酒保を解放した。沖繩特攻に行くんじゃけに船の中に酒やら菓子やら置いとく必要がない。8日未明に沖繩で敵の艦船に突撃するという命令じゃ。日にちがない。これから死に行くから飲み放題食い放題じゃが死に行くんじゃからそんなに飲めるもんじゃやない。食っても旨いもんじゃやない。この時に今治の渡部はギターを持ちよった。船に持ち込んだじよって時々弾いとった。その時もよ、わしに「俺がギター弾くから歌え」って言うんよ。わしも歌う気分じゃやない。特攻に行くいう時じゃし。それでも歌えってギターを弾きよるから「♪あれをござらんと指さすかたに」って当時流行った歌があったけに歌ったら皆が手を叩いて喜んでくれよった。特攻に行く事そのものが秘密じゃけに戦後映画で見たとやうな大和がハチマキ締めて何しよったとか涼月ではそんなことはなかつた。

呉を出港したのは夜中の12時じゃ。隠れて出て行きおる。徳山で降ろすもの降ろして徳山を出たのがあくる日の4時ごろじゃ。豊後水道を別府のほうに行つたらよ、4月7日、別府大分は桜が満開じゃつた。みんなが甲板に上がつてその桜を見るわけよ。誰一人話をするものがおらん。一人減り、二人減り、桜にさよならを告げたのよ。

五 沖繩海上特攻4・7 涼月

味方の飛行機は豊後水道抜けてしばらくはおつたけど、味方の飛行機が帰つてものの一時間もせんうちに低空で敵の飛行機が来るんよ。わしなんか「なぜ撃たんと」思つたわ。

戦闘の配置はわしなんかは魚雷じゃ。しかし対空戦闘じゃから魚雷は関係ないから水雷の者は皆、甲板整理でいたるところに分かれて配置に着いた。渡部は甲板前部の右側、玉城は甲板前部の左側、わしは後部甲板の端じゃつた。そんなふうに皆が分かれとつたわけ。

敵の飛行機が見えたんじゃが撃たんのじゃ。やっぱ「なぜ撃たん」思つたけど船の真上に来るまで撃たん。敵の飛行機が爆弾を落とすわけよ。でも一機につき2発しか抱えておらんから2発落としたら後は何も無い。それから機銃掃射、その繰り返しよ。こつちからも撃

ちよるよ。わしら甲板整理じゃから撃つ様子もわかるわけよ。後甲板におつたけに、その付近にも単装機銃が据えてあつて撃つとつたけど何十機も来とるけどさう簡単には当たらんよ。中には当たつて飛行機が火を噴いて落ちていくのも見えた。最初は大和集中やったね。わしは案外余裕があつた。本来の配置じゃなく甲板整理なわけや。じゃけん実際戦闘配置についておる人より精神的な苦勞は無かつたから大和の最後も見ることができた。

戦闘が始まつたら鉄兜をかぶるんじゃ。そういう決まりになつとるんじゃが実際始まつてみるとかぶらんよ。わからんやつとる。機銃掃射でやられた者もおるよ。弾が当たつた箇所を手拭いで縛つて倒れておつたけど手拭いは血で真つ赤じゃつた。戦死した者は水葬にするんじゃがそれもさう簡単にはいかんのよ。死んどるか、まだ生きとるかの確認は見たらわからん。本来は自分の班の者で戦死者が出たら同じ班の者で水葬にするんじゃつたがわしら後甲板に配置に着いとるから機銃の者がやられたからと言って水葬にする気にならんよ。別の班の者じゃけに。敵は3機編隊で来るわけよ。これが船の上まで来たら攻撃戦隊に代わるわけよ。個人個人が勝手に攻撃しだすから機銃も

この人はこの機、この人はこの機と狙つて撃ちよる。わしの体験としたら爆弾よ。上を見たら真つ黒いまん丸いゴムマリみたいな爆弾が2つ落ちて来よるわけよ。そのうち一発はわしのおる後甲板の外舷すれすれに落ちて外舷が少しへこんだわ。しかしこれによつて死んだ者はおらん。もう一発のほうは前甲板の右舷、艦橋の前に当たつて戦死者がぎょうさん出たわ。ここで死んだ者は爆弾の爆発、爆風で死んだ人で機銃掃射でやられた人はおらんかった。その時にわしは爆雷の所におつた。爆雷は水雷の管轄じゃからいつ爆雷攻撃の命令が出るかわからんから離れるわけにはいかん。後部に爆弾が落ちてきて背中から潮かぶつたまでは覚えがあるけど、そこで気を失つてしまつた。自分では死んだなど。どのぐらい時間がたつたか知らんけど気が付いたら目も見えよるし手も動く「俺は死んじよらん！生きとる！」この間、何分何秒の話なんじゃけど。艦橋と煙突の間で班長が死んだのと知らして来たもんで水葬にするのにわしら4、5人が班長を下ろしてそこらにある破片が転がつとるからそれを班長の体に縛り付けて水葬にする。その時みんなで敬礼してお別れよ。どうやら爆弾の破片でやられたらしい。

班長を水葬にしたら誰が言ったか「玉

城が左舷でかやつとる！（倒れている）」それで行つて見にやいかん思つて煙突があるろ、そこから左舷へ行つたら確かにかやつとるわ。かやつとるけど誰かわからん。頭、顔は包帯巻いとるで衛生兵が手当てしおつたんじゃろう。服の名札を見たら確かに「玉城」と書いてあるから「確かに玉城じゃ」思つたが生きてるか死んだるかかわからん。わしは手拭いの糸を一本引き抜いて玉城の鼻の所に持つていつたら糸が動くわ「玉城は生きてる！」生きてるならいい。ゆつくりできる状態でもないわな。だからすぐ元の配置に着いたわ。それから玉城がどうなつたかは全然わからない。

涼月は大和の右舷におつた。わしは後甲板じゃけに周りは良く見える。矢矧がやられた時も見えたわ。矢矧がやられて皆海を泳いだる。爆弾落とした後の飛行機は泳いだる者めがけて機銃を撃ちよるんじゃ。しぶきが上がつて、そのしぶきが池に雨が降るような感じやね。矢矧は特に泳いだ人が多かつたね。

大和はやられたいうけど大和は沈みだすまで時間があつたね。機関部やられたけど惰力でまだまだ走りおる。わしらの船も少し傾いて大和のほうに走つてぶつかりそうになるからバックをかけたんじゃ。12時の飯を食う時に戦闘配置に着いたか

ら飯も食わずに戦闘配置に着いたね。それで大和が実際に沈んだのは2時20何分じゃ。わしらは大和の右舷におる。大和は左舷をやられとる。後部をやられとるけん左舷に傾きだして後部からしもり（沈み）出した。わしら右舷におつて大和は左舷に傾きだしたから真つ赤な腹をそのまま出してきたわけ。それでも大和はなかなかしもらんかった。こんな状態でも高角砲で撃ちよつたがね。敵は爆弾落として機銃掃射して一定の時間が来たら引き揚げていきよる。わしなんか敵が引き揚げた切れ間に甲板整理を急ぐわけ。それが済むと敵の編隊が来る。爆弾落とす。機銃掃射する。帰つていく。甲板整理を急ぐ。この繰り返しよ。この時間が10分ぐらいのものじゃなかつたらうかと思ふ。大和も何回もやられよるけどなかなかしもらん。左舷に傾いた甲板を兵隊が歩いて大和の舳先まで行くのが何人もわかつたわ。その中の一人が戦後、沖繩の慰霊祭に行きよつた人で助かつた人じゃ。砲術の人じゃ。わしら特別に忙しいわけじゃない。

わしら後甲板にのつとつて右をみたらよ、海面すれすれに敵のグラマンが魚雷を抱えてわしらの船に向かつて飛んで来よる。わしは「これはいかん！」そう思つた。思うたけれどよ。わしらの船の上空

まで魚雷を離さずに来て、わしらの船のマストを通過するぐらいに魚雷を落としたりわ。そのグラマンには搭乗員が二人乗って見えるんよ。後部の搭乗員は操縦の者に話しかけるように体を前に向けておった。わしらの船の真上で魚雷を発射したとき大和は左舷に傾いて赤い腹を見せるとる時じゃ。魚雷を落としたりその飛行機はグツと回避して行ったわ。その魚雷が大和に命中するまで時間があるけど、天に届くような火柱が上がったわ。沖繩の人なんかこの世が裂けるような音がしたと言うようじゃが、わしなんかこの世が裂けるような音の記憶がない。そのまま耳をやられてしもうた。音は聞こえんけど火柱が天まで上がった。大和には揺れを防ぐために動揺止めの線が横腹にあるんじゃが、その動揺止めの上を人が走っているぐらい傾いとる。後ろの方からしもりだして突先が上がって菊の御紋が見えよる。大和は軍艦旗も突先に上げとるから軍艦旗と菊の御紋がまっすぐ上になつて、それを見てわしなんか「やつぱり日本は負けたな」そう思った。それでも大和は急にはしもらん。次第次第に見えなくなつた。これが大和の最後じゃつた。わしらの船もやられたけど命中したのは爆弾一発じゃ。

わしらのすぐ近くで冬月が泳いだる者

を助けよるんじゃがまたすぐ近くに敵の飛行艇が来て降りてよ、自分らの味方を助けよるんじゃ。敵は落とされても電波で分かるようになった。戦後洋上慰霊祭なんか行つたらね、他の船の助かった人から言われるのは「お前らは人ひとりも助けんかった。」ほかの船は泳いだる者を助けとつたが涼月は助ける余力がなかった。わしなんか見張りで後甲板におつてよ、大和にぶつかりそうになつたからかけたバックじゃが、そのまま夜になつてバックで帰りよつた。バックで帰りよるときに魚雷がわしらの船の底を通つて行つたわけ。潜水艦が近くにおるから爆雷攻撃せないかんけど爆雷はわしらの受け持ちやけ、そこで爆雷を2つだけやつたわけ。相手が沈んだかどうかは夜じゃからわからん。他の船はその日のうちに佐世保まで帰つたけどわしらの船はあくる日、そのままバックで佐世保まで帰つてきた。バックでゴトゴト帰つてくるとき漁船が2隻ぐらい近づいてきた。

六 相浦にて

佐世保に帰つてきたけど板打ち付けて応急処置して曳船に引つ張られて佐世保からグルツとまわつて相浦に連れてこられた。そこでは上陸もなし風呂もなしで2カ月涼月で暮らしたわ。ヒゲも生え放題、散髪する者もおらん。秘密保持で家



坊の岬沖海戦の大和（右上）、下は姉妹艦冬月

族に手紙も出せん。それでも生きて帰ってきたけにみんながどうかと言うと自分の戦闘配置もないけに暢気に暮らしていたという事じゃ。

取り出せん死体もそのままあつた。玉城の倒れていた隣には体半分押しつぶされた死体があつた。動かすこともどうすることもできん。臭いと思つて探してみたら死体が出てきたなんてこともあつたわな。

2カ月が過ぎたとき6月の8日か9日

じやったと思うが、やつと上陸許可が出て風呂へ行くことになったけど、人数おるからいっぺんには行けん。じゃから左舷、右舷に分かれて更に左舷の前、後ろに分かれて入湯上陸したわけよ。いっつも左舷が上陸して、その次が右舷じゃ。わしなんか右舷じやった。そうしたら風呂もぎようさんの人で入れんのじゃ。そうしたら一緒に行った土佐清水の田村と須崎の奥の細川とわしじゃ。田村は機関兵じゃ、細川は船の舵取りじゃ。その3人で風呂屋に行ったらわしらの船の者から漁師が列を作って並んどる。わしと細川が列に並んだら田村が「こりやあいかん。自分らどこか風呂を探そう」と言うんじや。「風呂はこしかないぞ」「まあオラに着いてこい。なんとかなるろ」田村は東京の相撲部屋におったことがある男で人馴れしとるんじやが。そんな話をしとる時によ、そこに小柄なおばさんが一人通りよるから田村が話しかけたんじや。そうしたら「このおばさんが風呂貸しちやる言いよるけん」借りて入ろうという事でわしと細川は列から離れて一緒に歩く。田村はそのおばさんと歩く。何を話してるかはわからんけどよ、100メートルも歩かんうちにそれは立派な家じやったね。その家に入ったんじやが、その家の入り口にはねこんな看板が出とったん

じや。『二等金穀貸付業』要は資産家じや。なにせ2カ月も風呂に入っちよらんけに先に入った二人を跨いで風呂の中に飛び込んだところがよ、同年兵の田村が「武政、体のコケをよく落として入れ。風呂を汚すな。おばさんに悪い」田村がおばさんに相談して風呂に入れるようにしよつたけ。言われてみたら誠そうじやと思つたけどこちらが風呂に入ってからじゃけん。しようないからそのまま風呂から出て二人が風呂出るまで待たないかんで服を着て外へでも出ようかと廊下に一歩出たところで若い女の娘が立つていよる。そうしたらその女の娘がわし見ちよいて「海軍さん、カルタを取つて遊ぼう」そう言いよるんじやな。それもいいかなと思つてその娘について行ったら畳を敷いた大きな間でよ。資産家じやけに。二人がなかなか風呂から出てこんで呼びに行った「ええ加減に出て来い！わしはもう一回風呂に入らないかんがや」そう言つて「この娘さん二人がカルタ取りをしようとするんじや」と話をしたら二人が「なに！娘さん！」慌てて出てきてよ。カルタを取り始めたわ。

それで十日ばかりして22日ごろじやつた思うが田村も細川も前甲板に代わつとつた。一番砲塔は無事じやつたから砲を赤城山に持つて行って防空砲台にする言うんで田村も細川もそれに出とつたんでわし一人で上陸した。その資産家の家に行つたら女の娘が「海軍さん、いまから赤城山に行つて海を見に行こう」長崎100島言うて100の島があるけん。「わしは海軍じやから海とか島なんか見とうない」「そう言わんと行こう」無理やりわしに行こうと誘う。仕方なく外に出たらお母さん、妹、女中も三人が玄関先でわしらを待ち構えて見送るけん。これはなにかあるなあ思つた。それで赤城山に行つたわけ。そうしたら上がりにくい所や細い道があるけにそんなときは手持つて引つ張つてやらないかん。そんなで戻つてきたら「武政兵長さん、写真を書そう」そう言いおるんじや。もうええわ思つて写真撮りにすぐ近くの写真屋に入つたら写真屋のおつちゃんはその娘に「嬢ちゃん」と言いよる。「嬢ちゃん、この海軍さんと写真撮る」嬢ちゃんは椅子に腰かけてわしはその左側に立たされて写真を撮つたわけよ。写真代をわしが払つたんじやが「お母さんが払う」言いよるんよ。わしもいつまでもここにおることもないから写真代はわしが払つて別れて戻つてきた。戻つてきたら班の者がわしの戻つてくるのを待ち構えてよ。転勤命令がわしに出とるんよ。呉の倉橋島で絞龍に乗れ。これを聞いて「ああ、これで終わつ

たな」思うたわ。二日後に上陸した時、その娘に話したんよ。そうしたらその子が泣き出した。その子は兄貴がおつて妹がおつて三人兄弟。兄貴は兵隊に行つてる。大きな家じゃけに、もしものことがあつてはいけない。田村が相談したおばさんがお母さんになる。その人が「兄貴に似た人が風呂呂に入ちよる」似とる人はわしの事じゃつた。それでわしを連れて赤城山に行つて仲良くなつてくれたらいいなと、写真代もそうじゃ。いろいろ世話になつたと札を言つて、その娘にも「元気で暮らせよ」言つた。明日の10時ごろ、相浦から汽車に乗るとも伝えた。

七 転勤

涼月から棧橋渡つて少し登つたら相浦の駅じゃけ翌日、一時間ぐらい早く駅に行つたらその娘がおるがや。その娘も泣きそうな顔しとつた。もうすぐ汽車が来る言う時にその娘がポケットから封筒差し出してわしに渡してきた。それ見たら「お餞別」と書いてある。わしはもうすぐ死ぬことがわかつとる。特攻基地に行くんじゃけ金が要らん。わしは受け取らんだけど向こうは泣いて「受け取つてくれ」言うからわしも「わしはもうすぐ死ぬ人間じゃ。死にゆく人間に金はいらんから金はお前が持つとつたらええ。わしは気持ちだけでええ」すぐ前に墓地が



相浦に係留された涼月 (戦後撮影)



特殊潜航艇 蛟龍

あつて、わしはそこにあつた石碑を指さして「わしはもうすぐ石碑になる。それがわかちよるけに金なんかいらん」そうしたらその娘は「武政兵長さん、あなたは私が死なせない！あなたの体は私が守ります！これをお守り代わりに受け取つてちようだい！」お守りと言ふ言葉聞いたとき、死にゆく体にお金はいらんけど死にゆく体にもお守りは必要かと思つてその差し出した餞別をわしが受け取つたんよ。受け取つたら彼女はホームの隅にある便所の所まで行つて頭を垂れて泣いた。その時に汽車がきたわ。走つて行つて「ありがとう泣かないでくれと」名前だけでも聞きたかつたが特攻に行つて死ぬんだからそこは自分が辛抱せないかんと思つて礼も言わな話もせずに汽車に乗つて別れてきた。

それから佐世保に来たら推測兵と言つて横須賀の学校出て20人ばかり佐世保の海兵団入つてきた。みんな16ぐらいじゃ。わしは鎮守府でみんな若い兵隊じゃな思つて見たらどこかで見たとの顔が一人いるわけ。けどどうすることもなかつた。その日は昼に昼飯を食うてよ。どうしても見たことのある顔を調べてみよ。やならん思つて出て行つたら丁度、その男も庭に出ておつたんで呼び出して「お前見たことがあるけど佐賀町じゃな

いか「その通りでハツとしたわ。「お前、熊吉さんの弟か」そうじゃと言う。「わしは白浜の者じゃがお前に相談があるけど聞いてくれんか。俺が死んだと聞いたらうちの親父に一人子が死んでもクヨクヨすることなく気楽に生きてくれと俺が言いよつたと親父に伝えてくれ」と伝えることを約束して別れたわけよ。その話をしとる時、すぐ近くでわしらのことを見とる男が玉城に似とるけどよ、顔もどこも格好が違うてしもうとるわけ。そうしたら「おい！武政じゃないか！」声で玉城とわかつた。「玉城か！お前生きとつたんか！」「生きとつたことは生きとつたけど、まあ見てくれ」帽子とつてみたら頭にどこにも毛がない。鼻もなんもないがね。わしも言うか言うまいか迷うたけど、こちらにも時間がないし「お前が炊事場の所でやられとると聞いたで行つて見たら顔も何も包帯で分からんかったけにそのままほつておいてきたけに」言うたら玉城が泣いてよ「なぜその時にオラを流してくれんかつたんじゃ！沖繩はオラの生まれ故郷じゃ。オラ沖繩で死んだら満足じゃ！」あの時一思いに流してやつた方が玉城のためになつたじやろうができるわけない「玉城、そう言うな。生きよつたらいい時もある。俺は倉橋島向いて転勤と言われたんじゃ。玉城、

長生きしろ。人間、生きとらないかん、死んだらいかんぞ」玉城も「俺も一緒に行きたい」そう言うて泣いて別れた。それで以降、玉城とはよう会わん。沖繩に旅行した時にも聞いたけどね。沖繩では玉城と言う名が多いそうじゃ。

わしは水雷科じゃから行くところは人間魚雷じゃとか魚雷艇じゃとか、こういうところを配置じゃ。そうしたら瀬戸内海で訓練をするときによ、その訓練の中に人間魚雷がわしらを敵に見立てて攻撃する訓練をする。砲術とか機関部とかは他に行くところがあるけど、わしはいずれ人間魚雷に行かされるじやろう。4月に助かつた時、行く先はそんな所やなと思つた。その通りになつたわ。

瀬戸内海で人間魚雷が訓練する時、わしらの船の下をくぐつていくんじや。それをいつつも見ていたからよ。今度自分に転勤命令が出たらどうせこういう事じやなど、ほかに配置がないけん。5人乗りの絞龍にはね、わしらも時々訓練出たけどね、それほど積極的にはなかつた。兵舎の中で講習受けるわけ。そうしたらピカッと光つたわけ。兵舎の中まで光つたけどそれが原子爆弾つて知るわけないわね。しばらくしよつて外に出てみたら真つ黒い雲が傘を差したように見えるわけよ。あくる日、直ちにそこに兵隊を送るわけ

よ。わしは行かなんだけど作業に行つた者が戻つてきたら「広島は話にならん。大きな川が人ばつかが浮いてよ。潮がさしてきたら奥向いて流れていきよる。見ちゃおれん」作業は聞いたたら「作業はせんかつた。どこから手つけてええかわからん」それを聞いて自分は行かんでもよかつた思つた。13日に職務を命ずる転勤命令がでたわけ。宿毛に行けど。そういう希望は出しとつた。できるだけ家に近いところに行きたいけん。それ聞いたときは「ああ、いよいよ来たな」思つてよ、それから何時間もせんうちにその転勤命令が止まつて「15日の12時にラジオ放送を聞け」言われた。何のことかさつぱりわからん。それが結局終戦じやつた。そのラジオ放送を聞いた司令が「特攻隊には終戦は無い！特攻隊はこのまま続けるから訓練は今まで通りに続けよ！」「そう言う。18日じやつたが呉の鎮守府から飛行機が飛んできおつたね。下に船のついた飛行機が。どうせその時にいろいと話しよつたと思つたけどね急に夕方じやつたが「四国四県の者は今晚8時にここを出て家に帰るから準備をせよ」こらまた急じゃ服なんか円管服で油が付いとるか脱ぎ捨てて8時に波止場に行つたら小さいポンポン船が待つとるわけよ。そこで手続きをして金も30何円かもろてポン

ボン船に乗った。夜10時頃に今治の三賀浜に着いたわけ。駅まで歩いてそこから汽車に乗って高松周りで一日がかりで久礼まで帰って来て、それから便がないからよ、宿に泊まってあくる日、陸軍がトラック出しとつてその車で白浜まで向かったけれど鹿島さんが見えるところまで来たらパンクしおった。修理まで時間かかるけど待った。その時「俺には鹿島さんがよかった。」今でもそう思う。家には12時の飯食うちよつと前に無事帰ってきた。聞いた話では一番最初に特攻兵、次に年寄りと女を返した。帰ってくる道中、汽車で知った年寄りや女学生にも会ったけん。

相浦で別れた餞別を渡してくれた女の娘も別れてから50年して夢に出てきたね調べてみたらその人はすでに死んじよった。一番自分には気になるわけ。

何十年もたつて四国巡礼に今治に行った。渡部が今治出身じゃけね。今治の忠魂墓地に行ったら名前書いてある碑の下の方に名前が書いてある。今治は渡部ばかりじゃった。けど渡部勇を探し出して泣いた。玉城には海兵団で会ったのを最後に会わん。あれからどうなったか所在がわからん。

インタビュー日時 平成30年5月10日

(大正14年生) 武政福一 二等兵曹



八 涼月その後

戦後の涼月は損傷のため復員船には使われず23年4月1日から5月31日にかけて、上部構造物の撤去を实地され船体は駆逐艦冬月、柳とともに北九州若松区の防波堤として使用された。現在、涼月、冬月は完全に埋め立てられに国土の一部となりその姿を確認することはできないが柳の一部を確認することはできる。また、若松港を見下ろす高塔山には昭和51年、涼月、冬月、柳の慰霊碑が建立された。



軍艦防波堤



高塔山慰霊碑

中村真曹長

(飛行第95戦隊陸軍特別攻撃隊菊水隊)

昭和18年 満州での中村伍長(当時)

操縦徽章は外出の際は外している



一 航空機乗員養成所へ

私は航空機乗員養成所というところが母体なんです。それは昭和13年6月に仙台と米子に試験的に逋信省が作ったパイロットの養成施設です。当時はその2か所しかなかったんです。私は一年に2期入りましたから私が16年4月に入つた頃は9期生でしたからね。私は仙台でやつてました。

まだ戦争始まんないから飛行機に乗ってたかったら民間パイロットになろうってことです。15年に旧制中学を卒業して、肋膜炎をやったから、本当は7つボタンの予科練が希望だったけどでも予科練は

あきらめて少しでも飛行機に近い所ってことで海軍の追浜にあった航空技術廠ってところに就職したんです。けどその頃はゼロ戦が12試艦戦といって試験飛行やつてる最中で追浜の埠頭で空を見てるとゼロ戦が宙返りしたり試験飛行をやるのを見て「俺もどうしてもあれに乗るぞ！」そう決意して航空技術廠を辞めて、どこかないかなと探したら仙台と米子に航空機乗員養成所が募集してると見つけたんで、これを受けてみよう。操縦生という過程でしたから操縦専門にやれるので応募して幸い合格しました。

一年間仙台で修行してその後軍隊に入つて半年たつたら伍長になれる。伍長になったら退役できて民間航空に専念できるという制度でした。16年4月に入校して卒業が近くなってきたころですかね、12月8日に非常招集がかかって大東亜戦争が始まったと教官から聞きました。「本八日未明、米英軍と戦端を開けり」そんな話があつて「こりや、民間には行けねえかもしれないねえな。アメリカと戦争して勝てるのかな」それでも一応予備役下士官候補として軍隊に入るようになってましたのでそのコースを踏んで岐阜の第2戦隊に入って岐阜から岐阜の陸軍飛行学校に派遣になり、飛行学校も各務原と北伊

勢と分かれてたので北伊勢に派遣されて半年訓練を受けました。予備役下士官候補で卒業したら民間に行くか軍隊に残るかを選択するんですが、私は軍隊に残ればいろんな飛行機に乗れる。民間飛行機はあきらめて、軍隊を志望したというわけです。

養成所の教官は養成所の卒業生で予備役下士官候補生の修業が終わって一応予備役になるでしょ。そうしたら航空局の嘱託という格好になってその方々が教官助手になつて各操縦班を編成して我々を教えるというシステムです。これが一年でしたかね。これを出ると地方から松戸にある中央乗員養成所に行つてそこを出ると一等操縦士、一等航空士になって民間航空で世界を飛び回れるようになってたんですが、それが戦争で崩れちゃったんです。「航空機操縦員ニアタウルノ訓示」なんてここは軍隊だぞ！なんてことが書いてある。私は操縦生課程だったけど本科生ができて小学一年、中学三年の子供が入ってきましたよ。彼らと一緒にやつたんですけど、「航空機乗員養成所入所者ニアタウル注意」なんて航空局が出してるんだよね。

※小学1年←高等小学1年(13歳)

二 飛行第95戦隊配属

航空機乗員養成所を卒業して各務原の第2戦隊に入りました。三重県の亀山にある北伊勢飛行場に派遣されて半年北伊勢で訓練を受けてました。ここで乗ったのは95式練習機と99式高等練習機、最後のほうは97戦ですね。編隊飛行は上手だったけど特殊飛行は失敗したからだと思えますが浜松にある105戦隊に転属されました。ここが重爆隊の実施部隊で半年97式重爆のI型に乗りました。この頃は旧式になって御前崎の三保の松原の高度3000メートルが訓練空域で富士山が目標だったですね。教官が複数乗って

て私が正操縦の席に乗って富士山の周りをまわる訓練から始まってね。富士山の麓にイタリアの爆撃機ハイヤットっていったかな。廃機になったようなのが置いてあってそこが爆撃の練習所になってて私らが標準機で伝声管で言ってきたのを聞きながら何度の方向、高度いくつ右に捻れて指示に従いながらやります。大型機の爆撃方法ってのは水平飛行の爆撃です。急降下爆撃なんてやらないです。どんなに気流が悪くても言われたとおり飛ぶように腕を磨いたんだね。いろんな計器があるでしょう。当時で97重は旧式でパイロットが「脚！」というと機関係が油圧でギッコギッコと脚を上げてた。

97重のII型になると油圧でガーッと脚引つ込むようになりました。それまで単発の飛行機で訓練受けた者が双発に乗って訓練を受けます。半年訓練受けたのかな。その時は飛行学校卒業する時は陸軍伍長になってたと思いません。結果、重爆に乗ることになりました

が希望は自由に飛び回れるなら戦闘機がいいけど重爆でも別にいいです。特にこれといってなかった。それから満州教導飛行第95戦隊に転属になりました。そこから呑龍との付き合いが始まりました。

三 呑龍に出会う

満州の95戦隊に来て初めて呑龍のI型に乗りました。このI型が評判が悪くてしょっちゅう火災を起こしてエンジンが燃え出すんです。排気管が悪かったらしくて排気管を改造した物が呑龍のII型になったりで事故もありました。18年5月頃満州に転勤で行ったとき、山本って新しい戦隊長が着任するっていうので飛行場に整列して出迎えに行っただすが奉天の方から夕方飛んできて光が見えたから「あれだあれだ」ってみんなで言ったら「あれだあれだ」って落ちて墜落です。みんな駆け足で墜落現場まで行きました。これが初めて戦隊長になる人が茨木大尉と川田軍曹が操縦する飛行機で落っこち

たんです。あんなに紙くずを散らしたように平らに飛行機が崩れちゃってその間にパイロットの死体がありました。途中、雨が降りましたから血は流されておりましたけれど、ある者は体はうつぶせに寝てるけど首は背中の方を向いてるとか。

茨木大尉は操縦桿を握ってる形で顔がクシャッと潰れた死体だったし川田軍曹はしばらく生きてたんじゃないかと思うんですが飛行服を手でむしったような形で破れてましたね。山本戦隊長は着任の日殉職です。これが私が殉職者の死体を見た最初です。

ここは鎮東、隣の白城子に呑龍重爆の74戦隊がありました。それと95戦隊と一緒にになって第5飛行団になります。

呑龍は前もって話は聞かされてたけど戦闘機の護衛なしに戦える重爆というように前触れだったからね。なにせエンジンが1450馬力で2基ついてますからものすごい音がするんですよ。旋回でも97重ならゆっくりです。操縦桿を左に傾けて左足で踏んで旋回するんですが呑龍になると97重よりも良かったですね。いろいろ資料を読むと呑龍はあまりいい飛行機ではなかったと書いてありますけど私にとっては割り合いよかったですよ。95戦隊は自分の飛行機、愛機つ

てのはなくて今日は誰それが乗ってた機、明日は誰その機ってシステムでした。ね。搭乗員も搭乗区分が前もって知らされて正操縦は私、副操縦は誰、通信は誰って配置になります。がだいたいパイロット次第でしたね。パイロットの正操縦と副操縦の息が合わないと他の事もうまく行かないものです。私は丸山大尉が副操縦でタクロバンの夜間爆撃をやったとき、丸山大尉が爆撃照準をして爆撃するんです。50キロ爆弾を11発積んでいくんです。タクロバン上空4000メートルの高さで行って副操縦が爆撃照準風速を測定して正操縦と伝声管で連絡しながら爆撃すると。水平爆撃というかたちでしたね。

四 内地からフリピンへ

19年の2月、出戦命令が出ました。本当は我々設立の目的は敵がソ連ということだったので鴨緑江周辺の橋やシベリア鉄道が攻撃の目標でした。超低空で艦船に体当たりしろとは全然考えてなかった。高高度は戦闘機が護衛してくれる。奉天はそのような訓練場があつて訓練に明け暮れてました。

出戦命令が出て満州の連中はみんな集まって九州の雁ノ巣飛行場を経て茨城の銚田飛行場に集合し東京防空隊に編入され、今度は改造の哨戒飛行で高度300

0メートルで太平洋上を飛んで哨戒活動をやつてましたが、これが割り合い早く終わつちやつたんです。銚田から帯広へ移動し、今度は北海道方面の海上哨戒と北千島得撫島あたりまでの海上支援というのが任務になってそれに明け暮れていたんです。そのうちに南の戦況が悪くなつてマニラはまだ落ちてないけどレイテがやられて捷一号作戦が発令されてマニラにマッカーサーが戻つてくると聞いて北海道方面の陸軍の飛行機がみんな集められて呑龍が56機の大編隊で北海道から宇都宮、立川、台湾を経てフリピンに行くという形になりました。この頃は特攻は決まつてなかったし大型機で敵艦に体当たりするなんて聞いたこともなかった。私たちがフリピンに行ったのが11月頃で10月に海軍が始めたのが陸軍にも伝わつて来て飛行機がない中、4航空軍の富永司令官が呑龍を出せつて言つたつて。呑龍は56機、クラークフィールドロントルカルメンには27機が展開したんだけど命令が出るころには9機しか飛べる飛行機が無かつたもんね。敵の攻撃でやられたり夕弾攻撃の時やられたり、タクロバン飛行場に胴体着陸して滑走路をふさげてつて作戦もありました。これが司令

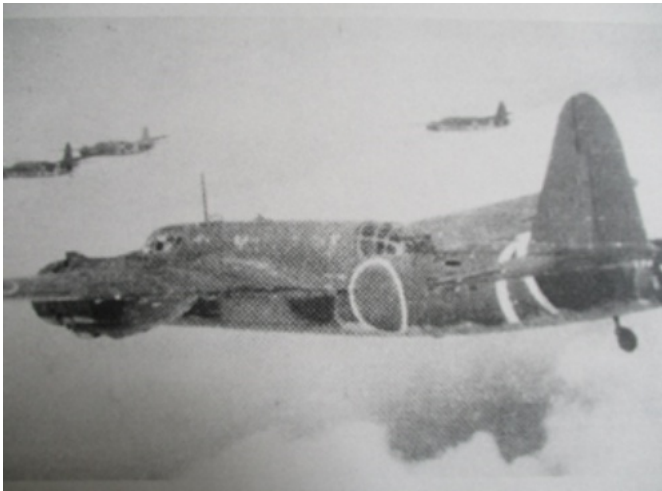
部の偵察機の写した滑走路に飛行機が2機いる写真を見せられたんです。戦後、この時の搭乗員で生き残つたのがいてその手記を読むとそれが嘘なんだ。滑走路に写つた写真は何だったんだ。ほかに高千穂空挺隊を乗せて行つたのは全滅です。それでも空挺隊で降りてるのがいるかもしれないから私ら夜間に糧秣、弾薬を爆弾倉に積んでブラウエンあたりを飛び回つて生き残つてる兵隊が懐中電灯で合図するからそれめがけて補給物資を落とせと言われたけど、懐中電灯の灯なんて全然見えなかつたね。操縦席とサブの間に装置があつて爆撃手がいないときでも投下できるように訓練は北海道で少ししたね。山肌石灰で潜水艦並みの大きい図が書いてあつて、それを帯広から飛んで自分で見つけるんだ。見つけたらボタンで10キロのコンクリートの重りを落とすんだけどそんな訓練をやつたね。

生き残つたパイロットの手記を見るとほとんど落とされたらしいね。私ら見送りにいったね。槍6段の先生で髭生やした兵隊さんが私の呑龍に乗つて威張つて出撃して行つたけどたぶん落とされたんじゃないかな。落下傘部隊は成功したと大本営は発表してるけどほとんど全滅してる。あんなデタラメなことやつたらダメです。フリピンに到着して戦況な

んて入ってきてないね。

私の初陣は丸山大尉と組んでタクロバンの夜間爆撃にいったのです。夜間しかないんだから昼間飛んだらやられちゃう。制空権が全然日本になくて輸送でもなんでも昼間は飛べない。艦載機が飛んできてるから。夜間になると10分間隔で編隊でなく単機波状攻撃に飛んでいくんです。護衛戦闘機なんてないよ。この夜間爆撃で私の時は対空砲火なんかなかったです。が私より10分早く行った前の中隊の一機がサーチライトに捕まって薄い雲の中を飛んでいったけどその周りを対空砲火がボンボン来てました。隊長が「中村、6000メートルまで上がれ！」って伝声管で言うから4000メートルで飛んだのを6000メートルまで上がった。その時は酸素マスク付けなきゃいけないんだけど忘れちゃって6000メートルまで酸素吸入なしで上がって今度隊長が測定して「何度の方向、何キロ、角度」って羅針盤の通りに飛んでいった。そうしたら雲があつて「隊長、このまま行ったら雲に入っちゃいますよ」って言うたら「それなら反方位に引き返そう」って隊長が爆弾投下して反方位に帰りました。

この時高度6000メートルまで上が



クラークフィールドに出撃する95戦隊の勇姿

りましたが3000が一番いい高度じゃなかったのかな。特攻に行った時も3000メートルでした。しかしこの3000メートルが敵の電探の一番、好感度の高さだったんだ。我々の9機も早くに見つかってたんじゃないのかな。台湾の屏東からフイリピンに地上の戦闘部隊を輸送したことがあります。別のパイロットが下手やつて尾輪を吹っ飛ばしちゃったんだね。「中村、尾輪の飛んだ飛行機持つって屏東で修理して後か

ら帰ってこい」なんて言われて屏東に降りたらその時に台湾の第一次空襲があつて後で私ら輸送機で運んでもらったときに見たんだけども屏東から台南、台中の飛行場みんなやられてた。当時台北に姉がいたので10円借りてまた飛行機で博多まで飛んで博多から汽車に乗って銚田へ帰ってきたんです。

五 菊水特別攻撃隊

特攻の時だつて戦闘機が60機くるつて情報だったのに一機も来なかった。来たのは軍偵一機だけ。天気もいいしこっちは「行ったら体当たりして死ぬんだ」って感じが無いんですね。「体当たりしたら痛いだろうねえ」なんて話してたぐらいい。計器盤の後ろに鉄板がはつてあつて操縦席の後ろに鉄板がはつてあるんです。「これの間に挟まれてサンドウィッチだなあ」なんて冗談言つてたぐらいです。快適な飛行で編隊組んでいけるし、体当たりして死ぬなんて感じは全くなかったですね。パイロット同士で敵艦の喫水線に突っ込んだらいいか、真上から煙突に突っ込んだらいいかなんて話しましたけど。

この前、「永遠の0」って映画を見ましたけど、ああいふ具合に並んで一杯の酒を飲んで盃を割ってたけど、あんなこ

とはしなかつたね。見送りはしてくれただ。地上整備員なんか飛行場の端に並んで手を振って私らが一機づつ上がっていきましたよね。我々の方はクラークフィールドの95戦隊からは7機が出てデルカルメンの方からは74戦隊が2機出たんです。デルカルメンは対空砲火も掩体壕もない飛行場でそこをグラマンが4回攻撃に来て、28機あつた飛行機が、とたんに使える飛行機が2機しか残らなかつたそうです。どうやらフリーピンの住人がアメリカ軍のほうに飛行機が来たことを通報してたんじゃないかと書いてるのがあるんだけどね。我々がデルカルメンに行った時無線で「今空襲を受けてるからしばらく待て」と言うんでバシー海峡の上でグルグル回って待ってました。

我々は夜中に編成され朝の6時半には離陸だから送別会なんかしてもらってませんが74戦隊は13日に食事会をもらってその写真があるんですね。

クラークフィールドを離陸してパナイ島ネグロス湾に行つたけど敵艦が一隻もいないわけだ。その理由は戦後評論家が調べた結果だけどもミンダナオ海を埋め尽くすほどの艦隊がいたけどそこにネグロス島の山肌すれすれに海軍の特攻機が突っ込んだ。その時、船団の旗艦、ナツシビ

ルつてのに突っ込んだので司令官が代わつてコースを変更したから日本側が船団を見失つてネグロスじゃないかパナイじゃないかつてなつた。本当はミンドロ島に上陸したんだ。結局敵を発見できないまま命令を出したんだな。そうしたら体当たりする船は一隻もない。もつともそのおかげで助かつてるんだけどね。この時丸山隊長も本当に困つたと思うね。49名の命を預かつて体当たりするつもりで現場に行つたら一隻もいなくて、待つたのはP47サンダーボルトつて戦闘機が17、8機我々が来るのを待つてたわけだ。戦闘隊形を組めて合図は飛行機の背中に赤白のジュラルミンの旗がたつたんだよ。編隊組んでたやつが零機幅つて言うんだ。要は一列横隊みたいに編隊を組んで飛ぶんだけど、操縦する方もぶつかつたら大変だから細かい風を読みながら飛びます。あれなら射手の方も標準が決まらないと思います。そんな訓練は一回もやつてないの。戦闘隊形を組んでの射撃の練習つてのは。このとき応戦はやつてます。考えてみたら3門しか銃がないの。相手は翼の8丁の機関銃が向かつてるわけ。そんなこんなで左の発動機やられて火を噴いた。河合軍曹が副操縦席に座つて一生懸命真ん中のエンジンレバーを操

作してた。何とかしようとしてたんだろ。うね。そこに敵の機銃弾が光の帯になつて入つてきた。操縦席の計器盤が吹飛ばんじやつた。左に旋回できないから右に機体を持つていつたら曳光弾の波が8列並ぶ。応戦はしても13ミリの小林曹長が最初にやられちゃつたんじゃないかな。藍原少尉は落つちてから「中村！」つて名前呼んでたからその時はまだ生きてたんだ。無線通信士の足立伍長を前方の機関銃に回してた。3丁しかないうちの1丁は前です。戦闘機は後ろから来るから前の1丁は役に立たない。重爆の弱点は横斜め上、真下。戦闘機は後上方から来るからね。呑龍は縦16メートル、横幅20メートルですから、こんな大きいのに戦闘機が狙つて来るんだ。「これが戦闘機だつたらよかつたのに」つて後で思つたね。私の飛行機が左エンジンやられて火を噴いた。私の飛行機の上を3番機、少年飛行兵の久美田の飛行機が火だるまになつて落ちてつた。最初の一撃で9機の内4機はやられちゃつた。それでも編隊長は右旋回右旋回なんです。どうするつもりだつたんだらう。「基地に戻るつもりじゃなかつたんですかね」つて特攻隊頭彰会の人と言つてたけど。飛行団長は「何かあつたら戻つてこいよ」つて丸

山大尉に言ったつていうけど特攻命令をもらつて「敵の船が見つかりませんでした」では丸山大尉の面目も潰れちゃうんだよね。私が墜落した段階で2機が海上で燃えていました。

六 不時着水

私は操縦桿をがっちり握つて空気の流れと海水の流れは同じだから上舵で引張つてほしい。海面に突つ込む形だと爆弾を積んでるから大変です。だから死に物狂いで引張つてた。右から海に入つて水圧が強かつたけど気が付いたら機体が浮いてるんだ。浅瀬に着水したのかと思つたけど後から聞いたら水深53メートルの所だつて。そこに何分か浮いてたんです。ちよつどガソリンも無くなつてたらしい。いつも3番タンクを空にしておくんです。機体のバランスの関係かな。それが浮袋の代わりになつて浮いたんだな。気が付いたときには機関係は天蓋を開けて翼端から海に飛び込むところだつたから「河合軍曹、どうするんだ」つて言つたら「向こうにかすかに見える島まで泳ぎます」泳いでいっちゃつた。こつちは泳ぎに自信がないしガラスもみんな吹っ飛んでる。そしたら呑龍の下から足立伍長つて若い伍長が浮いてきて「足立大丈夫か！」つて声かけたけど何も言わ

ずに泳いで行っちゃつた。「中村！」つて声があるので見たら藍原少尉が海の水真つ赤に染めて手を振つてるから「藍原少尉！やられましたか！」藍原少尉の手を引こうと思つたらガツつと乗つてた飛行機が沈みだすわけだ。軍艦が沈むとき慌てちゃいけないつて本で読んだことがあつたから成り行きに任せて呑龍と一緒に沈み、地面かを蹴飛ばして揚がつてきたんだよ。戦後呑龍が発見されたのが53メートルの海底ですから53メートルまで一回沈んだのかね。浮かんで周りを見たから誰もいなくて飛行機の中に積んでた荷物や残骸が浮いてたよ。我々が特攻に出たとき盃でお別れをやつて、パラシュートは座席の下にありましたが、それ以外は体当たりで死ぬんだからカボックや助かるための装具は返納して行きました。特攻に失敗したときに自決用に小刀を飛行服のどこかに仕込んでいたんだけどそれもどこかに吹っ飛んじやつた。

七 捕虜になる

墜落してしばらくは機体は海面に浮いてて私はパラシュートに掴まつて浮いてた。それこそセンチになつて飛行帽も外して海に沈めてそんなことしてるうちにどこかの島に流れつくだろうと思つたんだ。そうしたらフィリピンの漁師たちが

カヌーを出して浮いてるものを拾いに来た。そうしたら「トモダチ！トモダチ！」なんて調子のいいこと言つて友達だと思つてそのカヌーにひきあげてもらつたら「NO GOOD！」飛行服がビタビタだから脱げつてことで飛行服とズボンを脱いだら山刀を突き出してきた。おかしいなと思つたらフィリピン人にも敵がいんだね。そのカヌーに助けられて親船の所に行つたら先に飛び込んでた河合軍曹と足立伍長が首に縄をつけられて床柱に縛り付けられてた。私の飛行機は3人が助かつたんだけど尋問が始まつた。アメリカ軍の将校やらが来て我々に尋問したのはフランス人形みたいな女のアメリカ兵で机の上に呑龍の設計図が置いてあつて彼らは呑龍を「レン」と呼んでいました。こつちは禰ひとつだから女の兵隊の前に出るにはバツが悪いんでフィリピンのゲリラが半ズボンを投げてよこしたんでそれを履いて尋問受けた「アナタノ飛行機ノ仕事ハナンデスカ？」そんな調子で日本語で聞くわけだ。パイロットつていうとうるさいと思つて「マシガン！マシガン！」てなこと言つただけでばれちゃつてたみたい。先にふたり掴まつてるから話総合すればればれちゃうよね。名前も俺は斎藤十郎、足立は横山道雄にし

て言い出したのは河合軍曹なんだけど河合がなんて言う名前にしたのか思い出せないね。しばらく3人の尋問が終わったら俺だけゲリラに連れられてジャングルの奥の詰め所に連れられてった。後で聞いたら機関係の河合軍曹はひじの骨が飛び出るほどのけがをした。足立は前方の射手だったけど右足の関節がおかしくなつて曲がらない。そんなんでもよく泳いできたと感心するんだけどね。

後からそこに夕方近くになつてから海軍の偵察機から二人、陸軍の偵察機から二人、液冷戦闘機の法田つて男と歩兵の上等兵やら全部で8人ぐらい集まつたんで「俺と一緒に捕虜になつた二人がいるんだけど見なかつたか」つてきいたらゲリラの一人がスコップ持つて行つたつて聞いて「こりややられたな」と思いましたよ。銃はカービン銃をいつも担いでますけどスコップ持つて怪我した二人連れで行つたよつてなつたらやられたつて事でしょう。結局は戦死ですよ。この時捕虜になつて再会したのに編隊長機の無線をやつてた出納がいて「どうした？」つて聞いたら海岸に不時着してピストルでゲリラと応戦して5人がやられ、出納だけが怪我もなく助かつて縛られて連れてこられたんだ。だから結局、一緒に引き

上げたんだけど大分の男です。北鎌倉の呑龍地蔵にも何回か来ましたね。本名は山本治夫でそんな名前のお親戚がいたみたいだね。

八 オーストラリアへ

ゲリラの所に10日ぐらいいたのかな。12月14日に捕まつて奴らの所でクリスマスをやつてたからね。そこにアメリカ軍のカタリーナつて飛行機が来て前からいる奴と歩兵の上等兵の二人残して5人を連れて行つた。ゲリラは土民だけの上の方には白人もいたな。土民のゲリラを指揮してるのはフィリピンの下士官ぐらいだろうね。英語で号令かけて背の小さいゲリラが竹の棒をもつて訓練してた。「エクササイズ！」つて言うのみんなで体操してるんだけど我々も小屋の中で体操してました。ゲリラの連中とは仲良くなつてアメリカ軍が爆撃に大編隊で行きました。扱いは良いかつたですね。でも寝るときは万歳した状態で8人並べられて手と足を縛られてその状態で寝るんだ。夜中に小便がしたくなつたら不寝番がついてるから「ションベン！」ていうとチンポコ出して縛られてる体を裏返して下が竹でできた床だから隙間からチンポコ出るからそこで用をたす。「ここにもう

一回来ることがあつたら必ず爆撃してやるぞ！」つて思つてましたよ。何か仕事をさせるつてもなくて飯もゲリラと一緒にだから皿持つて並んでジャボジャボ入れてもらう。ジャボジャボの高梁飯と魚の揚げ物が多かつたけどそいつをもらつてテーブルいつて手づかみで食べるんだ。12月末にアメリカのカタリーナが迎えに来て乗つたとたんにコンビーフの甘く似たやつ山盛り食わせるんだね。モロタイ島に一晩泊まつて、このときは防空壕に入られて晩飯は大きな豆の缶詰だ。翌日輸送機でホーランジャに運ばれて、そこに行つたら日本軍の捕虜がいっぱいいて、こんなにたくさん日本軍の捕虜がいるとは思わなかつたけどね。みんな真つ黒に日に焼けて元氣だつたね。ここで俺の番号が100565つて番号をかけた。10万も捕虜がいるのかなと思つて聞いたら海で撮れた捕虜は10万の番号をかけるそうだ。軍艦や輸送船で沈んだ奴も助けられたら10万の番号だ。ホーランジャからオーストラリアのブリスベンに着いたら私は独房に入れられたのね。尋問があるだけ。ガチャガチャとドアが開けられて「ヘイ！ジョージ！センメン！」向こうの兵隊が怒鳴るんだ。兵隊の後をついてくとシャワー場をまわつてトイレ

があつてそこ終わつて帰つてくると皿に食パン、ジャム、赤大根に羊のステーキの分厚いのが2枚付いてすぐ待遇がいんだ。それが終わるとガチャガチャとドアが開いて「ヘイ！ジョージ！ジンモン！」独房から誰にも会わないように天幕がしてあるんだ。天幕の小屋に入ると日本人の2世の兵隊とオーストラリアの将校と二人がテーブルをはさんでいるわけだ。日本の5万分之一の地図があるんだ。ここはタバコは出す、キャンデーは出すは待遇はいんだ。ここで結構デタラメなことしゃべつたんだ。「私の郷里は山形県です。マウンテンマウンテン」そんな話やら、「飛行機は立川にまだ三千機はありますよ」変なことばかり言つて、時間が終わると「ジョージ！ウインドウ！」で囲われたところで自分で体操するんだけど壁に「だまされるな」って彫つてあつて前にいた奴が彫つたんだ。ガラスの破片が何かでね。騙されるなつてのが多かつたね。あまりにも待遇がいいからね。お茶なんかも紅茶だったしね。オーストラリアだからね。

隔離されてるんだよね。戦況なんかも入つてこない。隣の独房に何か人が入つてきたような気がしたので窓際で歌を歌うように「どこからきたの〜？」って歌つ

たら「沖繩よ〜」って返事してくれた。そうしたらオーストラリアの兵隊が「コラ！コラ！」つて。沖繩の捕虜がオーストラリアまで来てるんだね。だから沖繩あたりまで侵攻されてるとわかつたね。ここは一カ月ぐらいで終わつて、天幕生活から本部の小屋の方に回されてそこで生活をしたんだけど天幕の方の兵隊はニューギニアあたりで飯も食えずに栄養失調になつたりマラリアになつたりで骨と皮に瘦せちゃつた。小屋の方は本部になつてて収容所の所長や帝国大学出た英語の達人な人やラベレー帽被つてマドロスパイプくわえたしゃれた中村つて爺さんが居たりみんな変名だからね。オリンピッククベルン大会の時、水泳で前畑と決勝をやつたゲネンゲルに似てるつて水兵がいて俺が呑龍に乗つてたつて言つたら「呑さん」つて呼ばれてずつと「呑さん」だつたよ。白人が「サイトウ！」つて呼びに来るんだけど自分だと思わないから知らん顔してた。みんな死んじやつたけど若様つてのが今施設に入つてるのかな。彼は士官候補生で船がやられて3人ぐらいで漂流して助けられてんだけど、こつち帰つて来てから会いに行つたけど、そんな連中もいなくなつちやつたよな。気の合つた奴とは服部時計店の時計台の下

で会おうなんて申し合わせをしたもんだ。もう一人は警視庁の通信指令室に行つたら「ゴンさん」つて呼んでたのが通信指令室で110番やつてるんだ。「ゴンさん！どうしたんだ！」ゴンさんじゃなくて近藤だったんだな。中村さんも陸の中村さんと海の中村さんといつて海の中村さんはオーストラリアまで一緒にいたんだけど帰つて偶然会つたら中野当たりの学校の先生だつたよ。福家先生だつたね。

九 戦争終わる

収容所は砂漠の真ん中に円形であつて、4つに区切つてあつて日本軍の下士官、ドイツ軍、日本軍の将校、イタリヤ軍と分かれてるんだよ。イタリヤの捕虜はギターなんか弾いて陽気なんだな。ドイツの捕虜はなんか号令かけて「ハイルヒツトラー！」つて元気がいいんだ。日本軍の捕虜はボソボソして号令もなく赤い帽子赤いシャツ着せられて園庭を歩き回つてるだけだ。将校の方はわからなかつたな。オーストラリアの軍服を赤く染めて背中にPOWとか書いてある。小屋には20人ぐらいの日本人捕虜がわら布団で生活してる。

終戦の知らせはみんな集まつてね、13か14ぐらい小屋があつて班長がいるんだけど班長だけ集まつて、オーストラリア

の詰め所があるんだけどなんか騒がしいんだ。いつも連絡に来る下士官が新聞を持ってきたんだ『JAPANESE NDER』サレンダーって何だって無条件降伏だって。心境たつて俺が墜落したときに「俺が墜落するようじゃ負ける！」もう日本もダメだなと。俺は操縦桿握つたら絶対落ちない自信があった。呑龍様で千島に行こうがどこに行こうがどんな飛行をしようが任務を果たしてらんだけだ。俺が操縦桿を握つてゐる間は落ちない。だからこりゃ負けるなとて感じかな。ネグロスのゲリラの所だつてあつちこつちにスピーカーがあつてジャズが流れてるんだ。モロタイ島に行つて防空壕に入れたとき日本軍が空襲に来たんだけどかすかに爆音らしいものが聞こえてきたから防空壕の外に出て「頑張れー！」つて言つたら監視の兵隊が「コラ！コラ！」なんてね。ホーランジャでアメリカが飛行場を作る時ブルドーザーで大地を切り開いて分厚い鉄板を何枚も引いて飛行場を作つちやう。日本はツルハシとモッコで材木並べて滑走路でしょ。あれを見たらかなわないと思うよ。タクロバンの爆撃だつてやつつけたと思つて翌日に行つて見たら同じように飛行機が並んでるん

だ。それだけ補給しちやつてるんだね。こつちはやられたらやられつばなし。

21年の4月に日本に帰りました。大阪商船の第二大海丸なのか台湾製糖の台海丸なのか思い出せないけど台湾製糖の船はボロ船ばかりだつたそうです。引き上げ船に乗る時、港でコメの袋なんか我々積み込んだんだけど船員が出さないんだ。だから我々捕虜で船を分捕つてさ。捕虜と言つても駆逐艦の艦長はいるし機関士もいるし航海士はいるし、こつちが大勢なんだしさ。それで豆の入つた赤い飯だすし、お腹の減つた年寄りなんかカンパン何かねだりに船員のところに行くところへ持つて来いとか物物交換でパンの切れつばしなんかくれてたらしい。それを我々知つたから腹の虫がおさまらない。この船乗つ取ろうつて赤道超えてお祭りみたいなことやるんだけどその時に倉庫やぶりをやつて木の箱に入つたクジラの缶詰なんかあつたから配つて缶切りが無いかからスプーンでカンカンやつてるから引き上げ船の中、あつちこつちでカンカンやつてクジラの缶詰を食つたよ。

十 特攻作戦を振りかえつて

特攻は命令です。死ぬという実感がなかった。今、介護保険の関係で週2回体操なんかしに行つてるけど、そこに来て

る軍属の通信の方もダバオにいて死ぬ考えなんかなかったと言つています。死を恐れるとかいうけど死んだらどうなるかわからないんだから恐れるも何もないんだよね。私らは現地編成の特攻隊だけど内地で選抜されて急降下なんか特攻の訓練を何日かやつて出撃命令が出てきてます。特攻まで10日とか何日か時間がある兵隊さんの気持ちと夜中の一時に集められて朝の6時30分には離陸しろつて言われた者とは感じが違います。飛行機だつて特攻機じゃなくて普通の飛行機です。無線機を降ろしたつて書いてあるけど乗る者も5人、操縦士も副操縦なしで一人、機関、通信、後上砲で20ミリの撃つ者、後部の13ミリの寝つ転がつて撃つ者の5人です。5人に減らされたのね。マニラ上空で護衛の戦闘機が来るからつて旋回しながら待つてたけど来ないし万葉隊の佐々木伍長機もエンジン不調で引き返して合流できないで来なかつた。結局我々重爆だけ9機です。武装は500キロ爆弾と跳飛弾。跳飛弾は海面10メートルまでがって投下してハンドル切つて回避しないと自分が落とした爆弾でやられちゃいます。でも呑龍はそんな飛行機じゃないんだ。北海道で哨戒飛行の帰りに、一回レールを担当する将校が「操縦させ

てくれよ」って言うからやらせたの。そうしたら国後島の沖に軍艦島ってのがあってそいつに向かって突っ込んで350キロぐらいだったかな、釣り船に乗ってた漁師が船底に体をうづくまるぐらいに超低空で突っ込んで引っ張り上げたんだよね。こっちも二人がかりで引っ張ったんだけどどうしたら主翼のビスがみんな浮いちゃった。それで帯広に帰ったら整備の連中に文句言われちゃってさ「なんだこんな操縦しやがって！」って。だから跳飛弾なんて訓練もしたことないですよ。どうせ体当たりで突っ込むからそんな必要ないと思ったんじゃないの。

戦後、私の乗ってた呑龍が海底53メートルで発見されてインタビューを受けた時「あの特攻作戦は失敗だった」って言ったけど失敗も何も体当たりする船がないのに体当たりしてこいなんて命令を出すこと自体がおかしいんだよね。

北鎌倉の円覚寺の中に呑龍地蔵というのを作って特攻隊も含めて呑龍に乗って亡くなった方、積み残されてフィリピンの山の中で飢え死にしたりゲリラに襲われたりして亡くなった方の霊を慰めていきます。そこのお参りに泉川さん（泉川正宏 少年飛行兵11期生、74戦隊の菊水隊として戦死 本名 劉志宏）の妹さんと

叔父さんなんか参加してもらったことがあるんですよ。少年飛行兵上がりの芦原軍曹は私の中隊と一緒に飛んだことある人だけど95戦隊の2中隊だった。少年飛行兵の8期生で台湾名はロウ・ケンキョかな。彼もなかなか面白くて「野郎！お前らの首刈っちゃうぞ！」なんて言ってるね。私より少し先輩になるのかな。タクロバン飛行場攻撃に参加して小さい爆弾をまき散らすんですが超低空で行って滑走路に沿って飛びながら爆撃して並んでる飛行機を破壊する夕弾攻撃って攻撃に参加して戦死です。隊長機の操縦の橘軍曹は小豆島の出身で地元の干物なんか持ってきてたけど、不時着してゲリラと交戦して戦死したんだね。同じ中隊と一緒に飛んだ仲間だからね。

軍隊生活は充実してたもんだったね。一つの目的があったから。飛行機の操縦が毎日の仕事だったでしょ。それが一つの生きがいだ。フィリピンで Deng 熱で39度の熱で寝てた時があったんだけど仲間が出てったまま帰ってこないんで聯隊本部に出してくるようにならしたら「熱が39度もあるのにだせるか！」なんて言われてね。しかし飛行機に乗るのがパイロットの張り合いだからそれがよかったね。それで死ぬなんて考えたこともなかった

たもん。最終階級ですが特攻出撃で少尉になりましたが生還したから取り消されて曹長のままです。

インタビュー日時 平成26年4月6日

参考文献

特攻 最後のインタビュー

ハート出版

死にぞこないの挽歌

私家版



中村真曹長

史跡 詫間海軍航空隊跡

真鍋 道弘

◆太平洋戦争末期、戦況悪化した昭和20年、詫間海軍航空隊から出撃した神風特別攻撃隊は、沖繩周辺に群がる米軍艦船に体当たり攻撃を敢行し、多くの若者が壮絶な死を遂げた。

◆我が国の今日の繁栄を思うとき、その礎となった祖国防衛に殉じた多くの将兵のことを忘れてはならない。



記念碑「史跡 詫間海軍航空隊跡」

目次

- 1 香田・和田内・新浜地区住民の強制移転
- 2 航空隊の建設
- 3 詫間海軍航空隊の開隊
- 4 神風特別攻撃隊菊水部隊隊僚隊
- 5 神風特別攻撃隊琴平水心隊
- 6 空襲
- 7 終戦
- 8 終戦後の詫間海軍航空隊跡
- 9 新浜にあった呉海軍軍需部和問補給所
- 10 第11海軍航空廠詫間工

転

昭和16年11月26日、香田(100世帯)・和田内(27世帯)・新浜(9世帯)地区住民は、詫間国民学校の講堂で、詫間海軍航空隊及び新浜には後方支援する呉海軍軍需部詫間補給所建設のため、移転するようにと通告を受けた。

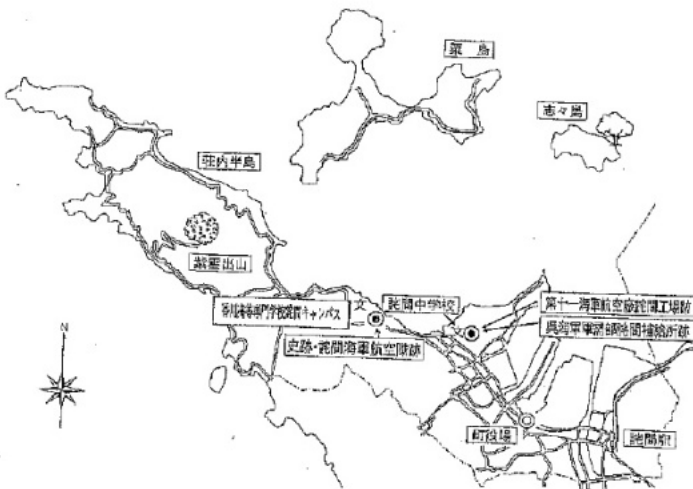
夫は戦地に赴き、残された女性・老人・子供による移転作業は、筆舌に尽くしがたいものであった。家屋を解体し、柱・屋根瓦・竹材・壁土まで、移転先へ車力で運搬した。曲がった古釘も、叩いて伸ばし再使用したという。

2 航空隊の建設

山林・住宅跡・田畑等を整地するため、

郡内さらには県内の在郷軍人・青年団・少年団・国防婦人会、その他に一般の人々・中学校・青年学校生徒などにより、手作業で行われた。今日のような機械は少なかった。腰弁当で、奉仕作業に汗水たらして働いたという。須田から大浜へ通じる道路は、海岸近くにあったが、航空隊の上側に変更された。

香田の天神山の頂上から見下ろすと、トロツコのレールが蜘蛛の巣のように長



く海岸の方まで敷かれていて、働いている人々は蟻のように小さく見えたという。

3 詫間海軍航空隊の開隊

昭和18年6月1日、詫間海軍航空隊が開隊した。開隊当時、練習航空隊の指定を受け、水上機の実用機教育を行っていた。各地から、2,000余名の兵員が着任し、連日猛訓練が展開された。詫間の上空は、連日たくさんの赤い色をした練習機(赤トンボと呼ばれていた。)が乱舞していた。

離水のため、練習機が水上を猛スピードで走り、その轟音はすさまじく、2、3キロ離れた所でもよく聞こえた。須田一粟島間の船も、危険なため迂回しなければならなかった。

4 神風特別攻撃隊菊水部隊梓隊

昭和19年9月、横浜海軍航空隊は、沖縄攻防戦に備えて、主力を詫間に移すことになった。ここに詫間海軍航空隊は、大型飛行艇隊を擁する水上機の一大作戦基地となった。兵員も3,000名を越えた。

詫間空(海軍航空隊)配備の二式飛行艇は、高性能の上、大型レーダーを装備していた。二式飛行艇は、詫間湾から毎夜索敵に出たが、無事に詫間空へ帰れる保証はなかった。米軍の夜間戦闘機と

交戦することもあり、搭乗員は無事詫間空へ帰るまで心身を擦り減らした。

昭和20年2月17日、連合艦隊は第2次丹作戦を発令した。第五航空艦隊では、これを受けて、第2次丹作戦の梓特攻隊の編成を命じた。

2月23日、詫間海軍航空隊にあった八〇一空誘導飛行艇を特攻機とし、神風特別攻撃隊菊水部隊梓隊が編成された。長途行動中に交戦も予想され、燃料消費料(片道3,000キロ)からも、無事帰還困難な作戦の性質から特攻機と定められた。

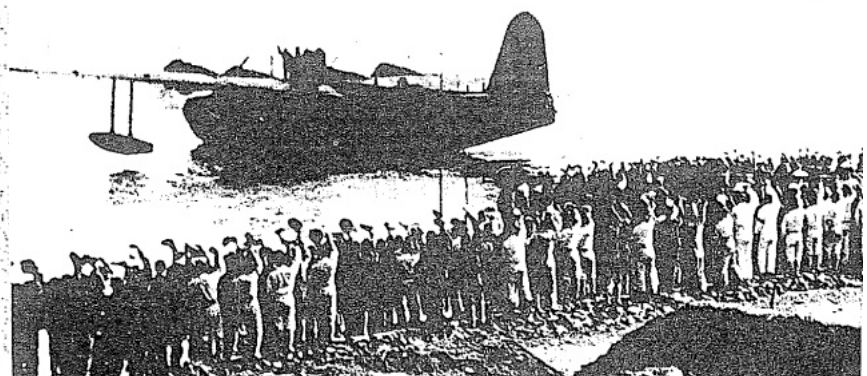
攻撃目標は、ウルシー泊地(フィリピン東方の太平洋の孤島)の米軍機動部隊の空母である。

《梓隊の編成と命令》

一番機は、本隊の4時間前に発進し、進撃行路ならびにウルシー泊地付近の天候を偵察し打電、帰投せよ。

二番・三番機は、爆装せず、陸爆(海軍の双発陸上爆撃機)銀河24機(800キロ爆弾搭載)をヤップ島まで誘導、付近海面に配備の潜水艦へ、またはメレヨン島に不時着せよ。

昭和20年2月24日、詫間空から鹿児島県の鴨池への進出が下令された。多くの隊員たちに見送られ、3機は一路鴨池基



隊員に見送られて、前進基地の鹿児島県鴨池基地へ発進する二式飛行艇「神風特別攻撃隊菊水部隊梓隊」

地へ向かった。出撃を前に、3月2日、天候悪化に加えて、「敵機動部隊の南九州空襲の算大なり。」との情報が入った。そのため、飛行艇の退避命令が下された。天候偵察の任にあたる一番機は、詫間海

軍航空隊へ避退途中、淡路島に墜落した。二番・三番機は、桜島の北東側へ回り、錨を入れた。予想された敵襲もなく無事であった。一番機を失った梓隊は、再編成のため、いったん詫間空へ帰投した。

3月8日、再び鹿児島県鴨池へ出発した。決行日の3月10日、梓隊は全機発進。途中で「作戦中止、引き返せ。」の緊急電が発せられた。情報が錯綜したためであった。

3月11日、再出撃となった。二番機は離水したものの、佐多岬上空で待つ銀河24機の前に姿を現さなかった。三番機は、単独で誘導という重責を担うことになった。三番機は、夕闇濃くなつたヤップ島上空まで、銀河隊を誘導し、その任務を果たした。ウルシー泊地に向かつた銀河隊は、米軍艦船に体当たり攻撃して、壮絶な死を遂げた。

その直後、三番機はエンジン1基が爆発停止。あえぎながら暗い海上をさまよつた。苦闘の末、メレヨン島近く海に不時着した。島の守備隊員とともに暮らし、栄養失調と病気に悩まされたが、57日目に潜水艦に救助され、奇跡的に詫間海軍航空隊に生還した。この作戦では、一番機は任務完了後帰投、二番機は未帰還、三番機は任務完了後、メレヨン島に到着、

その後、潜水艦により救助。5月には、丹3号作戦が発令された。これらの任務遂行において、二式飛行艇27機250名の隊員を失った。

5 神風特別攻撃隊琴平水心隊

昭和20年2月16日、全小型機による特攻訓練の実施が発令された。詫間海軍航空隊では、九四式水上偵察機・零式水上偵察機の實用訓練機の総力をあげて、錬成飛行隊を編成した。

予備学生第13期生の教官と教員が、実用機操縦教程で、訓練中断の14期特修予備学生、及び38期飛練（飛行訓練生）の

選抜組を教育するという形がとられた。

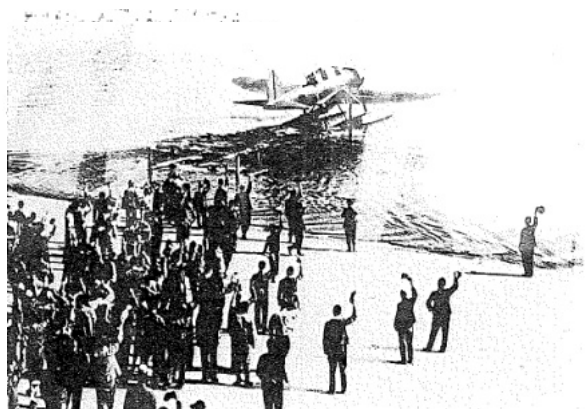
4月の初め、特別攻撃が決定した茨城県の北浦空（海軍航空隊）・鹿児島空は、沖繩までの距離と機材の関係のため、詫間空へ進出し、特攻訓練を受けながら、出撃を待った。詫間空で編成された神風特別攻撃隊琴平水心隊と茨城県北浦・鹿児島両海軍航空隊で編成された神風特別攻撃隊魁隊は、猛訓練の後、鹿児島県指宿を前進基地として、沖繩周辺の米軍艦船に体当たり攻撃を敢行した。

4月28日以降、1カ月間に4次にわた



九四式水上偵察機(特攻機に使用された。)

(全幅14.00・全長10.50・全高4.55)



隊員に見送られて、前進基地の鹿児島県指宿基地に向け、滑水を始めた「神風特別攻撃隊琴平水心隊」

る出撃があり、25機が米軍艦船に突入、57名の若者が壮絶な死を遂げた。

5月3日、詫間空から派遣されていた整備兵は、指宿特攻基地で、詫間空からの特攻機を待ち受けた。九四式水上偵察機には、500キロ爆弾を搭載し、零式水上偵察機には800キロ爆弾の信管を取り付け、点検・整備・給油(片道分)など、徹夜で行った。その間、特攻隊員は最後の一夜を過ごした。5月4日、東の空が白み始める午前5時、九四式水偵に続いて零式水偵が離水し、南の空に飛び去っていった。

特攻隊員の中には、予科練出身15歳位の少年や予備学生出身の20歳の若者が、祖国を守るため死を覚悟しての出撃を、整備兵たちは断腸の思いで見送ったという。

第4次出撃のあった5月28日、7名が戦死した。その中の一人、重信隆丸少尉(財田村出身)は、特攻隊に編成されてから家族との面会は許されなかった。

5月27日の朝、詫間から1機の九四式水偵が、財田村へ飛来した。そして重信家の上空を低く旋回しながら、バンク(翼を上下に振ること)をして、南の方へ飛び去っていった。そのとき、家の庭へ落としていった信号筒の中には、両親をはじめ家族一人一人に宛てた遺書が、

長い巻紙にしたためてあった。享年23歳であった。

6 空襲

昭和20年3月19日、詫間海軍航空隊が、初めて米軍戦闘機の銃撃を受けた。香田の天神山をかすめるように低空で、8機の戦闘機が一行になつて、滑走路に銃撃を繰り返して来た。

島影に回避滑走する海上の二式飛行艇に気づくと、米軍戦闘機4機ずつ二手に分かれた。一隊は滑走路にある飛行機を攻撃し、一隊は海上の二式飛行艇を攻撃して来た。やがて二式飛行艇は、火を發し沈没した。

当時の航空隊には、対空火器陣地は無きにひとしく、対空火器も飛行機搭載の機銃が主であった。

7月23日、詫間海軍航空隊は、突如米軍戦闘機の空襲を受けた。その中の6機が、粟島西浜海岸に座礁していた東洋汽船所属の雄洋丸(1万トン)に激しく攻撃して来た。

小型爆弾投下と機銃掃射の二段攻撃であった。態勢を整えくり返し攻撃してきた。小型爆弾が命中すると、船体が破裂し、水面に落ちると水柱が上がった。

雄洋丸では、兵が銃座で応戦していたが、1人が機銃に撃たれ即死し、他の1人が負傷した。そのうち米軍戦闘機の1

機に機銃弾が命中し、北海岸の江灘沖に墜落した。その数10秒後、また1機が東風浜の海に突っ込んだ。両機とも炎上せず尾翼が海面高く出ている。残り4機は、南東の空へ飛び去った。

7 終戦

昭和20年8月15日、真夏の正午、ラジオから終戦を告げる玉音放送が流れた。詫間海軍航空隊では、司令以下約300名の隊員が、戦闘指揮所前に整列して放送を聞いた。沈痛、異常な風景で、誰もが涙を流し、解散を命じられても、なかなか立ち去ろうとはしなかったという。

「米機動部隊が土佐沖に接近」の情報があり、3日間くらい、飛行機にありつたけの爆薬を積み、それぞれの機の下に毛布を敷いて、徹夜で待機した。

大本営参謀や軍令部は、「各航空隊は、即日解散し、搭乗員を8月23日までに全員帰郷させよ。」との緊急指令を發した。

昭和20年8月23日、司令松浦義大佐は、全隊員に対して、海軍航空隊解散についての指示と、即日帰郷して、祖国の復興のために尽くしてほしい旨の説諭をした。復員する隊員には、検垣主計長から3月分の俸給や帰路に必要な食料等を支給された。

8 終戦後の詫間海軍航空隊跡

昭和20年11月7日、詫間海軍航空隊跡

に連合国軍（120名）が到着した。詫間海軍航空隊・大見送信所・第11海軍航空廠詫間工場・呉海軍軍需部詫間補給所等の施設・兵器・糧食・被服等を摂取した。

12月8日、米軍第24師団34連隊第3大隊の先遣隊約200名、12月11日には、本隊約1,000名が詫間海軍航空隊跡へ進駐してきた。

昭和21年2月から、香川県の進駐軍は、米軍から英連邦軍に交替した。英連邦第5旅団が、善通寺町の旧第11師団騎馬連隊に旅団司令を置いた。詫間海軍航空隊跡は、進駐英連邦軍兵士の保養キャンプ地として、23年3月まで利用された。

航空隊跡地内の南側に、昭和24年11月、北三豊国民健康保険町村組合立永康病院が開設された。その後、30年には町村合併に伴い町立病院となり、36年宮ノ下に新築移転した。

24年4月、官立大阪無線電信講習所が大阪府から在校生とともに、航空隊跡に移転してきた。5月に国立詫間電波高等学校と改称した。

9 新浜にあった呉海軍軍需部詫間補給所

補給所の建設は、詫間海軍航空隊の建設にあわせて進められた。建設予定地内の9世帯が強制移転させられた。この補

給所は、航空隊に必要な物資（飛行機・食料・衣料等）を補給することを任務とした。

10 第11海軍航空廠詫間工場が詫間補給所に

広島県呉市広町にあった第11海軍航空廠飛行機部第二工場では、飛行艇の分解・修理を主体とし、他に水上機・戦闘機・陸上機の修理や改造も担当していた。昭和19年9月から空襲が激しくなり、工場疎開を兼ねて、新浜にあった呉海軍軍需部詫間補給所に移ってきた。10月から補給所の施設を利用して、修理工場を建設した。竹脇技術少尉が常駐して、工場の運営・管理全般に携わった。技手・工長・工手（3名）・組長（6名）・基幹工員（100名）・徴用工（200名）・医務員（5名）の陣容で、詫間工場の作業が開始された。その後、19年12月、増川女子挺身隊（45名）・女子年少工（20名）が、広町の本廠から配属され、戦力が増強された。20年4月、勤労働員学徒として観音寺西業動員学徒（男子200名）、6月には善通寺高女動員学徒（100名）が配属され、地域の人などで、総員800名の陣容で、各種飛行機の修理等で、詫間海軍航空隊の後方支援に精根を尽くした。終戦後、呉海軍軍需部詫間補給所・第11海軍航空廠詫間工場の兵舎を利用し

て、昭和22年5月3日、詫間中学校が開校した。



詫間中学校 昭和25年

連載山ある記22 茨城県「難台山」

会員 池田 康博

JR常磐線の岩間駅とJR水戸線福原駅の間には「吾国（わがくに）愛宕ハイキングコース」が設けられている。岩間駅から愛宕山・難台山（なんだいさん）・吾国山を通って福原駅までの縦走コースは、笠間アルプスとも言うらしい。約6時間を要する健脚者向けで、挑戦意欲は掻き立てられるが、車移動の場合は難しいので、難台山だけを目指して登ることとした。愛宕神社下にある「あたご天狗の森公園」の駐車場から出発するこのコースも、往復約4時間の中級者向けコースとされている。



難台山頂への標識

もう一つ、この山に登る理由は、南北朝争乱時の「難台山城」の城跡を見たかと思っただけである。案内によれば、城に籠った南朝方を北

朝方の上杉朝宗が度々攻めたが容易に落ちなかったため、遂には糧道を断って落としたとある。

平成21年2月19日、9時10分に駐車場を出発、よく整備された公園の舗装道路を登っていくと数分で難台山登山口に着く、ここから山道となるが、笠間市民の憩いの道でもあるようで広い道が続く。実際、散歩とおぼしき軽装の人達と挨拶を交わしつつ登った。しかし、低いが急な起伏が多い。直登の坂では歩を進める度にアキレス腱が伸びているのを感じながら歩く。見晴らしの丘や南山展望台など、6、7か所のアップダウンを通過して10時17分に団子石峠に着いた。

ここから頂上までは、ほぼ二百二、三十mの登りである。途中には団子石や獅子ヶ鼻、屏風岩といった巨岩がある。「天狗の裏庭」では、石岡市側が切れ落ちている難台山の山体や、遠くの筑波山、加波山などを眺め、11時25分、山頂に着いた。標高は五百五十三m、笠間アルプスの最高地点でもある。山頂は割合広く、また、真っ白に雪を頂いた日光男体山や那須岳を、冬枯れの木々の向こうに見ることができた。ここでゆっくり昼食を摂って、12時5分以下山開始、山頂から数分下った場所にある「難台山城跡」の標識に従って、左折、



難台山城跡

僅かに平らになった地形が現れ、周囲に石積みが散乱した状態の場所が現れた。そこが城跡であった。落城後六百数十年もの時の経過を感じさせる。無常の様と言おうか、史跡としての看板がなければ見落としてしまうところであった。しかし、砦のような規模の城に思えたが、攻めるには大変な地形だというのは実感できた。道は更にどんどん下り、杉林の中を通過、駒場という里までいっきに来てしまった。このため、公園の駐車場まで登り返す破目となり、標高が二百五、六十mの駐車場に着いたのは13時48分であった。しかし、難台山往復のコースタイムよりは、若干早く帰り着けたようではあった。

急激な下り道に入った。転んだら止まらないような斜度の山道を木の枝に掴まりながら、或いは道に沿って渡してあるロープを支えに下って行く、道沿いに

顕彰譜 (10) 会報 134号から始めた特別攻撃隊全史第二版の顕彰譜の
ご紹介第十回目です。

陸軍航空

陸軍爆撃隊発祥之地の碑



この碑は陸軍爆撃隊発祥の記念碑であると共に陸軍爆撃隊戦没将兵の慰霊碑である。その中には富嶽隊を始めとし、この地で編成された特攻隊ばかりでなく、特攻散華した全重爆隊員が含まれている。更にまた、体当たり特攻だけでなく、重爆や輸送機をもって特攻隊を載せ敵中に強行着陸した飛行隊員も含まれている。この碑は航空自衛隊浜松基地の広報資料館の傍にあって、資料館には旧軍の資料多数が展示されているが、その中に特攻隊に関するコーナーがある。



所在地 静岡県浜松市西区西山町無番地
航空自衛隊浜松基地内
建立 昭和49年2月9日
写真提供 航空自衛隊浜松基地

陸軍航空

鉦田陸軍飛行学校顕彰碑



建立の記

鉦田陸軍飛行学校は、昭和十五年十二月旧上高白鳥岡村約八百町歩、旧新宮村四百町歩の地域に開設され、軽爆、襲撃飛行隊幹部の教育訓練並びに研究が行われていたところである。

大東亜戦争いよいよ熾烈となるや、本土防衛のため、昭和十九年六月鉦田教導飛行師団となり、翌二十年七月主力を以つて純作戦部隊として第二十六飛行団に改編された。この間、特攻隊が生まれ訓練の基地となり、我国特攻隊として最初に編成された万衆隊を始め、鉄心隊、勤皇隊、皇魂隊、振武隊四隊、神鷲隊十二隊、外四隊計二十四隊が編成された。うち十一隊計六十七名が、比島、沖繩及び終戦直前の鹿島灘東方洋上作戦に参加し、特攻散華されたのであった。なお学校訓練並びに新編成部隊の昼夜を分かたぬ猛訓練のため、幾多の将兵が殉職されたところである。

戦後すでに二十九年、当飛行場跡は徒らに荒廢を極め、往時を回顧すべき何物もないのは洵に痛恨の至りである。

茲に於て、地元有志並びに戦友相諮り殉国の英靈を顕彰し、その鎮魂と世界平和の祈りをこめて、ここに鉦田陸軍飛行学校顕彰碑を建立した次第である。

昭和四十九年十月

梁瀬健吾 撰文



所在地 茨城県鉦田市

(元鉦田陸軍飛行学校跡)

建立 昭和49年10月3日

守護団体 茨城県鉦田市串挽三三八

東野一也方

鉦田陸軍飛行学校顕彰碑

奉賛会(伝える会)

陸軍航空

原町飛行場関係
戦没者慰霊碑



原町飛行場は昭和15年以来順次に、熊谷、水戸、鉢田の各飛行学校の分校として使われたが、ここで教育を受け後に特攻隊員として戦死した者は一四隊、五二柱に及び、その氏名は向つて左側の銘板に刻まれている。

所在地 福島県南相馬市陣ヶ崎公園墓地
建立 昭和46年8月15日
写真提供 南相馬市博物館

陸軍航空

陸軍司令部偵察隊の碑



由来記

表面には、

「航空戦史に燦然たる功績を残した司令部偵察機諸隊は、主としてこの地で錬成され、東亜の全域に雄飛しその多くは再び還らなかつた」と書き添えている。裏面には、大戦中全戦域で健闘を続けた独立司令部偵察隊および司令部偵察機を指揮下に持った飛行戦隊と独立飛行隊の全部隊名が克明に刻まれている。

昭和20年4月第一次航空総攻撃が実行されるや、双発優速の百式司令部偵察機にて編成された特攻隊は、4月7日鹿屋飛行場より二機、4月12日都城西飛行場より二機、同じく鹿屋飛行場より二機、5月14日福岡より空母を求めて三機、沖縄東方洋上空母に大型爆弾を搭載して突入した。司令部偵察隊を忘れる事は出来ない。

所在地 千葉県八街市朝日四八六
 (旧八街飛行場東南隅)
 交通 総武本線八街駅下車
 建立 昭和60年5月19日

特攻文芸

短歌・俳句・川柳の部



- 追いかける 母のすがたに 流れ星
- 満月を いっぱいに描^かく 母の顔
- 火恋し ひとしお美紗子 亡^は母^は恋し
- 身に沁^むむや 亡^は母^はのぬくもり 拾いし猫
松花江
- 征く君の 首にまかれし マフラーに
想いをのせし 我も飛び征く
- 青空に 咲きたる花よ 舞い上がれ
飛び征く君に とどくよに
淳子

- マスク無し あれこの人は 誰だっけ
- 髭剃りの 回数増えた 脱マスク

ネコ



事務局からの報告等

一 令和4年度事業報告及び決算

令和五年度第一回定時理事会(5・2・15)と定時評議委員会(5・3・8)において令和4年度の事業報告及び決算が承認され内閣府に報告したので会員各位にご報告します。

令和4年度事業報告書

1 慰霊事業

令和4年度は、新型コロナウイルスの影響が徐々に緩和されてきたものの、感染防止対策のために、主催慰霊祭及び各地の慰霊祭が縮小ないしは中止に迫られました。

(1) 第43回特攻隊全戦没者慰霊祭

令和4年3月26日(土) 11時より、靖國神社に於いて、一般の会員も含めて、例年並みの昇殿参拝を行った。ただし、懇親会は感染防止のため中止した。

(2) 第71回特攻平和観音年次法要

令和4年9月23日(金、祝) 秋分の日の午後2時より、世田谷山観音寺の特攻観音堂内に於いて、感染防止のため、役員のみで参列で斎行した。

(3) 各地慰霊祭への参列等

規模の縮小や中止、あるいは、慰霊

(時期)	(慰霊祭名)	(場所)	(参列代表者)
3月28日	特攻勇士之像慰霊祭	宮崎縣護國神社	石井専務理事
4月2日	鹿屋特攻隊戦没者慰霊祭	鹿兒島県鹿屋市	藤田理事
4月7日	戦艦大和追悼式	鹿兒島県南さつま市	及川評議員
4月10日	万世特攻隊慰霊祭	鹿兒島県南さつま市	宮本評議員
4月17日	偕行社慰霊祭	靖國神社	岩崎副理事長
4月22日	春季例大祭	靖國神社	藤田理事
4月23日	特攻勇士之像慰霊祭	沖繩縣護國神社	臼田理事
4月30日	秋田県特攻隊招魂祭	秋田市	宮本評議員
5月3日	知覧特攻隊慰霊祭	鹿兒島県南九州市	石井専務理事
5月8日	特攻殉国碑慰霊祭	長崎県川棚町	石井専務理事
5月14日	特攻勇士之像慰霊祭	福岡縣護國神社	石井専務理事
5月26日	特攻勇士之像慰霊祭	千葉縣護國神社	鮎田理事
5月29日	予科練戦没者慰霊祭	土浦駐屯地	金子編集長
6月25日	筑波海軍航空隊慰霊祭	つくば市	原評議員
7月9日	大東亜慰霊協慰霊祭	靖國神社	岩崎副理事長
8月15日	全国戦没者慰霊大祭	靖國神社	岩崎副理事長
8月15日	十三塚原特攻慰霊祭	鹿兒島県霧島市	及川評議員
8月28日	戦没学徒慰霊祭	広島県護國神社	石井専務理事
9月4日	楠公回天祭	岐阜県下呂市	高松評議員
9月11日	高野山空挺慰霊祭	和歌山県高野町	及川評議員
10月2日	銚田陸軍飛行学校慰霊祭	茨城県銚田市	石井専務理事
10月8日	明野忠魂塔慰霊祭	三重県明野駐屯地	岩崎副理事長
10月9日	特攻勇士之像慰霊祭	茨城県護國神社	及川評議員
10月13日	特攻勇士之像慰霊祭	長野縣護國神社	石井専務理事
10月15日	申良基地慰霊祭	鹿兒島県鹿屋市	岩崎副理事長
10月18日	秋季例大祭	靖國神社	岩崎副理事長
10月18日	秋季慰霊祭	千鳥が淵墓苑	岩崎副理事長
10月22日	特攻勇士之像慰霊祭	長崎縣護國神社	鮎田理事
10月24日	特攻勇士之像慰霊祭	大阪護國神社	原評議員
10月25日	神風特攻戦没者慰霊祭	愛媛県西条市	鮎田理事
10月25日	永代神楽	靖國神社	石井専務理事
11月1日	特攻勇士之像慰霊祭	埼玉縣護國神社	岩崎副理事長
11月3日	神風特攻慰霊	フイリピン	福江理事
11月23日	若潮慰霊祭	香川県小豆島	石井専務理事

令和5年度収支予算書(損益ベース)
令和5年1月1日から令和5年12月31日まで

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減	備 考
I 一般正味財産増減の部				
1 経常増減の部				
(1) 経常収益				
① 基本財産運用益	14,970,000	12,303,000	2,667,000	
② 特定資産運用益	130,000	130,000	0	
③ 年会費	2,740,000	2,853,000	△ 113,000	
④ 慰霊事業益	1,800,000	1,800,000	0	
⑤ 出版事業益	20,000	34,000	△ 14,000	
⑥ 広報事業益	0	0	0	
⑦ 受取寄付金	2,000,000	2,136,000	△ 136,000	
⑧ 雑収入	0	0	0	
経常収益計	21,660,000	19,256,000	2,404,000	
(2) 経常費用	0			
① 事業費	18,284,000	15,876,305	2,407,695	
慰霊事業負担金	820,000	780,000	40,000	
像制作負担金	2,060,000	935,000	1,125,000	
発送等委託費	1,500,000	1,500,000	0	
他団体助成金	2,100,000	2,100,000	0	
役員報酬	180,000	180,000	0	
給料手当	3,480,000	3,360,000	120,000	
福利厚生費	360,000	504,000	△ 144,000	
旅費交通費	2,700,000	2,004,000	696,000	
通信運搬費	522,000	330,000	192,000	
減価償却費	120,000	30,505	89,495	
退職手当	0	0	0	
消耗品費	480,000	450,000	30,000	
印刷製本費	540,000	564,000	△ 24,000	
会議費	120,000	118,200	1,800	
光熱水料費	72,000	82,200	△ 10,200	
賃借料	2,220,000	1,860,000	360,000	
諸謝金	200,000	200,000	0	
臨時雇資金	660,000	732,000	△ 72,000	
退職手当引当資産繰入	150,000	146,400	3,600	
② 管理費	7,736,000	6,907,537	828,463	
役員報酬	120,000	120,000	0	
給料手当	2,320,000	2,240,000	80,000	
福利厚生費	240,000	336,000	△ 96,000	
旅費交通費	1,800,000	1,336,000	464,000	
通信運搬費	348,000	220,000	128,000	
減価償却費	80,000	20,337	59,663	
退職手当	0	0	0	
消耗品費	320,000	300,000	20,000	
印刷製本費	360,000	376,000	△ 16,000	
会議費	80,000	78,800	1,200	
光熱水料費	48,000	54,800	△ 6,800	
賃借料	1,480,000	1,240,000	240,000	
臨時雇資金	440,000	488,000	△ 48,000	
退職手当引当資産繰入	100,000	97,600	2,400	
経常費用計	26,020,000	22,783,842	3,236,158	
当期経常増減額	△ 4,360,000	△ 3,527,842	△ 832,158	
2 経常外増減の部	0	0	0	
(1) 経常外収益	0	0	0	
貯蔵品資産受入	0	0	0	
資産計上	0	0	0	
投資活動収益計	0	0	0	
(2) 経常外費用	0	0	0	
特定資産への振替	0	0	0	
貯蔵品除却損	0	0	0	
経常外費用計	0	0	0	
当期経常外増減額	0	0	0	
当期一般正味財産増減額	△ 4,360,000	△ 3,527,842	△ 832,158	
一般正味財産期首残高	291,802,960	288,273,507	3,529,453	
一般正味財産期末残高	287,442,960	291,802,960	△ 4,360,000	
II 指定正味財産増減の部	0	0	0	
一般正味財産から振替	0	0	0	
当期指定正味財産増減額	0	0	0	
指定正味財産期首残高	0	0	0	
指定正味財産期末残高	0	0	0	
III 正味財産期末残高	287,442,960	291,802,960	△ 4,360,000	

祭のみで直会を行わない等、各地で対応は異なったが、年度当初予定の51か所に参列の予定に対し、実際に参列できたのは34カ所で、他は玉串料や供花を奉納した。

2 会報の発行・広報

公益誌としての機関誌・会報「特攻」138号〜142号の5ヶ号を発行し、会員・協団体及び希望者に配布・頒布した。また、会の名称の普及、及び、若手会員の募集を狙って自衛隊向けの広報紙に4回広告を出すとともに、SNSを活用した広報のために、FBやHP更新を行った。

3 調査研究・特攻関連出版物等の作成等

特攻隊及び特攻隊戦没者等に関する事項を調査・研究することにより、特攻に関する史実を伝承する。令和4年度は、担当理事を中心に調査研究グループの会合を開き、資料収集と調査研究方向の意見交換を行った。今後は、各地の関連資料館等との連携を密にし、収集した資料等の広報誌への掲載や、出版等を通じて、特攻に関する史実の伝承に寄与したい。

4 護國神社への「特攻勇士之像」建立奉納事業

令和4年度は、3年度以前から調整し

ていた奉納が出来ず、全52か所の護國神社等に対する奉納特攻像は、令和3年度と変わらず21体である。令和5年度は、岩手、高知、両護國神社への奉納が可能と考える。今後も引き続き他の護國神社等への説明を継続し、多くの国民が、特攻像を見ることにより、特攻隊員に対する慰霊・顕彰の気持ちを持てるような環境作りに努力したい。

5 会員の動向

令和4年度における新規入会者はコロナの影響で、役員、会員による勧誘に制約があったため42名と低調であった。一方、退会者は会費未納3年による会員資格喪失と逝去等による退会も併せて、退会者が138名となったため、令和4年度末会員数は昨年度より96名減少し、136名となった。

会員の減少傾向は、会の年齢構成から見れば今後も厳しい状況が継続するものと思われるが、会の魅力化による会員のつなぎ止めに努めるとともに、役員等を中心として、特に若手会員の獲得を重視して募集業務に精励し会勢の挽回を期したい。

二 会報記事の訂正について

会報一四四号(令和5年2月号)

44頁上段4句目

誤 ●みやしろに 桜の花の 咲く時に

逢いに行きたや 君待つか

正 ●みやしろに 桜の花の 咲く時に

逢いに行きたや 君待つかの地

寄付者御芳名(敬称略)

(令和5年1月1日〜3月31日)

(単位千円)

一〇〇〇 多田野 弘

一三三二(株)サンデイ・アトリエッジ

五〇 高橋 芳幸 三〇 大原 江伸

二〇 遠山 三千代 一二 深水 彪

一〇 茂木 尚 一〇 粕井 隆

一〇 降矢 達男 一〇 原島 淳子

一〇 石井 令彦 一〇 多田 剛

一〇 紺野 真理 一〇 鈴木 敏博

一〇 吉田 三郎 一〇 齋須 将

一〇 宮倉 崇 一〇 大鳥 美緒

八 椿 孝則 八 竹本 佳徳

七 今井 敏 七 吉野 信二

七 田村 豊彦 七 武谷 孝生

七 中村 光太郎 七 牧 重勝

七 名和 まどか 七 氏家 康宇

七 馬場 しづ子 七 神林 千祥

七 今泉 幸男 七 佐藤 三恵

七 星野 明彦 七 上野むつ子

七 福島 八郎 五 小林 一朗

五 清水 典郎 五 市川 雄一

五 服部 武志 五 白田 智子

三	澤田	壽朗	五	橋口	俊一	二	田尻	利重	二	岩本	哲男	東京	石塚	英行
三	岩館	芳雄	五	酒見	奎一	二	山本	健雄	二	菊地	昭夫		今野	涉輝
三	倉田	邦男	五	中村	真	二	水町	博勝	二	伴野	富夫		森	充
三	杉山	蕃	五	羽瀨	徹也	二	櫻村	保貞	二	児玉	芳雄		古川	ひとみ
三	石井	光政	五	北森	茂樹	二	島田	正登	二	大瀧	成紀		寺井	聡
三	圓藤	春喜	五	加藤	千佳	二	塚原	正	二	川本	修二		橋本	百合博
三	(公財)	千鳥が淵墓苑奉仕会	二	中川	望	二	中川	望	二	白井	日出男	神奈川	福居	寛美
三	加藤	拓	二	中島	尚史	二	北村	菜穂子	二	新	淵	新	西山	妙静
三	橋本	亀	二	荒木	秀一	二	桜井	實	二	大	阪	大	野村	朋美
三	鮫島	美知子	二	田中	臣二	二	宮尾	敏晴	二	高	知	高	大原	江伸
三	林	佐吉	二	平川	善人	二	中熊	真一	二	會員訃報(敬称略)				
三	沖	周治	二	古川	淳一	二	戸祭	真生	二	ご眞福をお祈りします。				
三	中本	ゆかり	二	田中	襲	一	笹路	能也	一	茨	城	茨	本間	尚衛(5・2・22)
三	堂坂	清	一	大林	喜一	一	里崎	雪	一	埼	玉	埼	小島	啓三(5・1・13)
三	前田	俊郎	一	石垣	貴千代	一	加藤	凡順	一	東	京	東	色摩	力夫(4)
三	宮下	久代	一	生峯	和代	一	宇都宮	秀全	一	岸		岸	恒雄(4・12)	
三	藤井	明	一	早坂	正子	一	森	實	一	佐	藤	佐	泰夫(5・1・5)	
三	山中	進	一	小林	由貴子	一	今村	隆弘	一	三	好	三	達(5・3・6)	
三	(有)	イチカワ北海道食品	一	後藤	忠保	一	林	秀一	一	神	奈川	神	中村	家久(4・11・23)
三	色摩	力夫	一	吉田	日光	一	佐藤	孝二	一	富	山	富	澤田	壽朗(4・1・28)
三	柄澤	寛之	三	高井	賢一	三	新入會員名簿(敬称略)			兵	庫	兵	林	英夫
三	布施木	昭	三	田中	正和	三	(令和5年1月1日〜3月31日)			三	重	三	澤田	正直(5・1・16)
三	田辺	さだ子	三	望月	賢一	三	福島	八卷	隆子	愛	媛	愛	高橋	正直(5・1・16)
三	藤田	幸生	三	衣笠	陽雄	三	埼玉	高橋	眞智子	福	岡	福	栗原	巖(5・1・1)
三	市来	徹夫	三	斎田	伊佐夫	三	東京	木村	達人	熊	本	熊	上嶋	正敏(5・2)
三	平田	重夫	三	吉満	正広	三	宮田	力行						
三	安藤	佐智子	三	福島	隆夫	三	八木	晋一郎						
三	中村	剛	二	野村	朋美	二	芳賀	寿						



会員ご入会のご案内

「特攻隊戦没者に感謝と敬意を」

当顕彰会は、先の大戦の末期、一つしかない命を、祖国の安泰と家族や大切な人のために捧げられた特攻隊員に対し「あなた達のことは忘れません。有難うございます。感謝します。私たちも努力します。どうぞ安らかに！」を胸に、慰霊・顕彰を行う団体です。これにご賛同して頂ける方ならどなたでも会員にお迎えいたします。多くの皆様のご入会をお待ちしております。

○当顕彰会の主な事業

- ・ 特攻隊戦没者の慰霊顕彰（他団体への参加を含む）
- ・ 会報の発行等による特攻及び戦没者の伝承等
- ・ 特攻に関する資料の収集、調査、図書等の貸出講演会等の開催その他
- 年会費
- ・ 一般会員 3000円
- ・ 学生会員 1000円
- URL: <https://tokkotai.or.jp>

QRコード



ご投稿についてのご案内

ご投稿に際しては、次の点にご留意くださるようお願い致します。

- 1 原稿は、手書き、ワープロ、パソコン作成のいずれでも結構です。可能ならば、ワードファイル、又はテキストファイルで頂ければ幸いです。PDFファイルは編集の都合上、お受けできません。
 - 2 記事の取捨選択、紙面の都合等による一部割愛、修文等については、当顕彰会にお任せ願います。
 - 3 投稿記事に関する写真がありましたら、なるべく添付して下さい。
 - 4 原稿、写真等は、原則としてお返し致しません。必要な場合はその旨お書き添え下さい。
 - 5 会員以外の方の投稿も歓迎致します。
 - 6、投稿記事等の送付先は、左記宛てとして下さい。
- 〒102-0072
東京都千代田区飯田橋一丁目5-7
東専堂ビル2階
公益財団法人 特攻隊戦没者慰霊顕彰会
電話 03-5213-4594
FAX 03-5213-4596
E-mail jimukyoku@tokkotai.or.jp